新女界

主幹 海老名彈正

要目

煩悶なき生活　安井哲子
歐米婦人の政治運動　早稻田大學教授　安部磯雄
良人の愛を得る妻と失ふ妻　海老名宮子
成績の悪い小供の矯正法　女子高等師範教授　宮川壽美子
下婢の使ひ方　元良博士夫人
食傷の一夜　醫學士　金子魁一
英國だより　文學士　内ヶ崎作三郎
親切老婆（御伽噺）　大塚楠男
近代に於ける吾國婦人の自覺　海老名彈正

主筆 安井哲子

第壹巻第參號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷第參號

目次

◉煩悶なき生活　安井哲子

●思想

◉歐米婦人の政治運動　早稻田大學教授　安部磯雄

◉良人の愛を得る妻と失ふ妻　海老名宮子

◉童話の目的　石野爲之助

●家庭

◉成績の惡い子供の矯正法　女子高等師範教授　宮川壽美子

◉下婢の使ひ方　元良米子

◉家庭衛生談　醫學士　金子魁一

◉家庭の情愛と家庭祝日　田村田鶴子

◉人事問答

●文苑

◉行當りばつたり　文學士　內ヶ崎作三郎

◉親切老婆　大塚楠男

◉乳母櫻　高濱長江

◉古戰場を弔ふ　村山信子

◉ぐみいちご　吉澤香波

●講壇

◉近代に於ける我國女子の自覺　海老名彈正

●隨感

◉近頃の雜誌を讀みて　安井哲子

◉女子の言語と服裝　鈴木文治

●雜錄●彙報

香油　大瓶　卅五錢　中瓶　廿五錢　小瓶　十七錢

白粉　大瓶　卅五錢　中瓶　二十錢　水製　廿五錢

千代田香油と白粉とは廿世紀式の新香料を配合して調製せるものなれば、夙に淑女令嬢間に愛用せられ高評盛なり

東京馬喰町

山岸三之助

電話浪花三七九三

社告

主筆 海老名彈正

新人

毎月一回一日發行
一冊金拾五錢（郵税ナシ）
壹ヶ年前金壹圓六拾五錢

第拾卷六月號要目

○統一主義敎育の餘弊 社説
○宣敎五十年の感想 小崎弘道
○クリスチャン生活の光榮 敎壇
○基督の權威 中村恭之助
○自然主義と神秘主義 佐藤瀫橋
○英國通信 内ケ崎作三郎
○積嶋かたり 大塚楠男
○この道（お伽話） 偶花
○日本に於ける基督敎諸宗派の現勢 相原生
○東都講壇▲島田三郎氏の孔子敎に就て▲市村瓚次郎氏の朝聞道夕死可矣▲増野悦興氏の傳道と政治及び敎育
○時評▲敎育界と基督敎▲其他

東京小石川區久堅町八
新人社事務所

社告

謹啓「新人」及び「新女界」とも前金切の御方は至急御送金あらんことを切望致候。なほ振替貯金口座により御送金の方は手數料二錢御忘れなく御加へ置被下度候

東京小石川區久堅町八番地
新人社事務所

「新人」及び「新女界」大賣捌所

東京神田裏神保町	東京堂
東京京橋尾張町	警醒社
東京京橋尾張町	東海堂
東京神田區小川町	勉强堂
大阪市心齋橋筋南久太郎町	福音社
神戸市北長狹町通六丁目	福音舍
仙臺市南通	勞働會
岡山磨屋町	異書院
米國桑港	文明堂
韓國京城	日韓書房

京都御染物

本檳榔子黑
江戸褄模樣類
新柄小紋色々

東京小石川上富坂二三
コーツ邸内

京屋 佐藤松治郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主治効能
五疳 驚風 痰咳 瘧疾
胸腹痛 解熱 寒冒
泄腹 中暑

小兒藥王 天子丸

定價
五丸入 金五錢　廿三丸入 金廿錢
十一丸入 金拾錢　六十丸入 金五拾錢

東京神田區新石町十八番地
本家調合所
濟世堂 齋藤藥館

營業項目
●諸會社定欵、簿記、用箋類
●名刺、廣告、引札類
●寫眞版、木版、電氣版類
●醫家病院用印刷物及附屬品
●此他如何なる緻密の物にても迅速且鮮明に印刷仕候
●地方及び諸教會よりの注文は特別御便宜に取扱可申候

東京市本郷區弓町一ノ一
忠文堂印刷所

カメリヤ洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の
巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀
なる美貌は最新の化粧法により配
劑せられたる高等美身料カメリヤ
洗粉の常用によりて
顯はる本品の小量を
微温湯に溶解し洗面
を試みよ花香芬々と
して心身爽快を覺
ゆるのみならず顏
面潔白となりて艶
を生じ年若き花の
顏となるべし
定價
大瓶 壹個 廿五錢
小瓶 同 十五錢
大袋 同 五錢
小袋 同 三錢
鑵入 同 十三錢
本舗
東京神田 小林富次郎
ライオン齒磨 發賣元

木下尚江君著

小説 勞働

誤れる基礎に建造を企つ、改築又た改築、益々破壊沒落して、而かも自ら悟らず、誇つて人類の進歩と强辨するもの、實に今日の文明なり、疑闇あるもの、憂愁あるもの、憤懣せるもの、乞ふ來つて『勞働』を看よ。

本月五日 新刊發賣

四六版三百四十頁

正價 四拾五錢

郵税 六錢

ツルゲネーフ先生大作

戸川秋骨君 敲戸會同人共譯

獵人日記

未だツルゲネーフを知らずして近代文學を説くものはあらず、未だ獵人日記を讀まずしてツルゲネーフを口にするものはあらず、獵人日記はその代表的傑作なればなり。本書は卽ちその尤も精確なる飜譯にして原作の眞意と妙とを傳ふるに於て殆んど遺憾なしとす。蓋しツルゲネーフ氏の飜譯世に少なからずと雖も、本書の右に出づるものあらざるべし、苟も新文藝及大陸文學の如何を知らんと欲し併せて小説飜譯の模範を見んと欲するものは須らく本書を一讀すべし。

今六月中發賣

菊判クロース

美装 凡五百餘頁

東京本郷區弓町 昭文堂書店 振替東京七六七四番

文學士 皆川正禧 譯述

淑女の美德

新刊 クロース製美本 定價金五拾錢 郵稅六錢

時事新報評 シアラー博士の著を譯したるものにして卷頭一の序文なく、裝釘內容共に瀟洒なる婦人の最良讀物なり。全編を緒言、他愛、誠實幇助と妨害、書籍並に讀書、家庭の生活、態度、衣服の嗜好、圓熟は世の反則、野鄙なる言語、音聲及び談話、會話、空談、途上の心得、思慮なき娘、運動及び休養、健康、母の力、意思、世の力たる意思、滿足、靑春の二十九項に分かち其緒言に於いて、古の婦人は紡織に巧みにして、有益且つ美麗なる織物を製出したり。現今の婦人に機織の技を心得るものなし。されど人は皆各々自己の思想性行てふ永遠に亘る織物に向かつて、時々刻々其品性と運命とを織り出し居れり。されば苟くも其生涯に通ずる淑女の履歷を織り成さんとするには、其成熟時代の修養最も肝要なりと說き、其以下の項に於いて、凡そ女子が處世の間に注意し、修養すべき諸點を網羅して餘さず。

此書の如き專ら若き婦人の爲めに著はされたるものならも啻に若き婦人のみならず如何なる婦人の前にも反省熟慮の友として一讀を勸むるの價値あるものとす

行文亦なだらかにして、原著の意義を平易に、而も我國婦人に適合するやう譯述したる、著者の才と其深き用意とを見るべし。

マンテガッツァ原著 文學士皆川正禧譯述 **良人の選定** 定價金參拾五錢 郵稅四錢

スウエル女史原著 本田增次郎譯述 **黑馬物語** 定價金五拾錢 郵稅六錢

博士ファラー原著 海老澤亮譯述 小說 **三家庭** 定價金壹圓 郵稅八錢

佐々木邦 譯補

いたづら小僧日記

最新刊 三版發賣 定價金四拾錢 郵稅四錢

東京朝日新聞評 夏目漱石氏の「我輩は猫デアル」と同工にして異曲其人の頤を解かしむる所は此れ却つて**奇想天外より落ちて彼に優れる所あり天下の奇書なり譯文亦明快毫も難澁の痕なし**

百年祭紀念出版（リンコルン）

リンコルン一代記

定價金七拾錢 郵稅六錢

肖像及び挿畫二十餘面入 總クロース製美本

天才者と普通人とを問はず、世界萬人の學ぶべき人物としてリンコルンに優る偉人は在らず。彼は實に東西古今に傑出せる**理想的偉人なり** 今年は米國に於て其百年祭行はる、これが記念として本會は此書を出版せり。舊日本に於ける一種の國民讀本として**太閤記は社會の各階級に讀まれたりき**本書の如きは**當代日本**に於ける**家庭讀本**として**少年讀本**として將た**國民讀本**として遍く讀まるべきものなり。本書全卷小說的に最も**興味饒かにリンコルンの一代を詳記し繪入ふりがな附**として**繙讀を愉快**にし**容易**にせり**裝釘**また**堅美**

版元 東京巢鴨郵便區上駒込十九番地 **內外出版協會** 振替口座東京三五五番 〇 電話下谷四三八番

煩悶なき生活

安井　哲

此の世の中に苦勞心配の絶ゑぬのは、誰でも多少實驗して居る事で、富貴の方々にも病氣の憂ひがあり、健康なる者にも貧の苦みがあり、一方に其妻を失つて幼兒の世話に困つて居らるゝ夫があれば、一方には愛子を失つて悲みに沈んで居らるゝ母親もあります。かゝる苦痛の多い世の中に、吾々は如何にして平和で且幸福な生活が營まれるでありませうか。

第一　心を平和に保て、

人生が若無意味の者でありますならば、毎日唯食べたり着たりする爲めに、機械の樣に働いて居るのは、誠に面白くない事でありませう。併之れに意味があるとすれば、長い生活の道々に起つて來る種々の出來事にも亦意味があるに違ひありません。其故に其出來事の奥には如何なる意味が潜んで居るかを能く考へて、之れを自分の生涯に利用しやうと試みねばなりません。かゝる心の狀態は、之れを言ひ換へて見ますれば、快樂や苦痛を伴ふべき種々の出來事に對して、心が常

に準備されて居るといふ事であります。尙詳にいふ時には何か思ひがけない良い事があつたとて大喜びをし、次の瞬間に悲みの來るのも知らず、又少し氣にかゝる事があれば非常に心配して、正當に之れを處置する方法を考へる勇氣もないといふ樣な、意氣地のない淺薄な心の有樣でなくて、今少し奥の深い覺悟のある心の狀態をいふのであります、此心持は卽平和の心持で、悲みの中にも慰安を見出し、喜びの中にも責任を感じて、常に心の釣合を失はぬ有樣であります。

第二　正直なる仕事を求め又仕事を正直にせよ。

かく心を平和に保つには、第一に何でも正直な仕事を求め之れを正直に爲すといふ方針で世に立たうと決心せねばなりません。先學生時代に就いて申せば、毎日の課業は之れを忠實に勉强しやうと考へる事が肝心であります。誰でも好きな學科と嫌ひな學科とがありますから、何の學科に對しても、同樣の興味を有つ事は出來ますまいが、厭であるから爲すべき事も怠つてせぬといふ事は正しくありません。吾々は自分の最嫌ひな仕事に依つて生活せねばならぬ運命に出逢はぬとも限らぬのみか、厭でも何でも爲すべき事は必ず爲すといふ習慣を養つて置く事は、將來社會に立つ場合に最必要な事であります。

かく學生が眞面目に學業を勉强する時には、其結果の良否はさて置き、「一心に仕事をする」といふ事自身から少からぬ愉快を得る事を自覺するでありませう。若又其勉强の結果として、學科が非常に上達すれば尙更一層の滿足を得られますのは明かで吾々は此上外に何も望む者はありません。例へば他人の賞讃や報酬などはどうでもよろしいので、是等は正直の働に直接伴ふ滿足の情に甚しい影響を及ぼさないのであります。併是等の外部的刺戟が年の若い方々の心を非常に刺戟するといふ事は事實に相違ありません。例ば諸學校の優等生の寫眞又は其方々の記事が、新聞雜誌に現はれる時には若い人々の中には大騷ぎをさるゝ方々もありますが、若之れを眞の學者賢人達が世に賞揚せらるるのと同樣に大得意になるならば非常なる誤りであります。眞の學者は其名を世に傳へんが爲めに勉强したのではなく、其學に眞の興味を以て勉强を樂みとした結果、自分の望みもせぬ他人の賞讃を受くるに至つたので、かゝる大家の眞に感せらるゝ快樂は、恐く學問自身で、他人の己に對する感想ではありますまい。

かく學問を樂しみとしてするのと、名譽報酬を得んがためにするのとは、或は學問其者の結果に於ては同じになる場合があるかも知れませんが、其學者の價値に於ては非常に違ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

があります。年の若い學生方の中には、自分の寫眞や記事を新聞雜誌に掲げられるといふ事を、無上の榮譽の樣に思はれる方もある樣でありますが、必しも之れが名譽ではありません。若假りにかゝる事を無上の喜びとし、又かゝる境遇にある他人を羨む樣な人々があるならば、實に不健康な心の狀體にあるといふ事を反省せねばなりません。

次に學生時代を去つて社會に出で、或は人の妻となつて一家の仕事をなし、又は敎師として學校に働き、又は何か他の仕事に從事する場合には、先自分の義務に忠實であらうといふ事を心懸けねばなりません。英國の或小說に、

「餓え疲れた一人の男兒が、急に夕立に逢つて、丁度其處に居合はした商人親子と一處に或家の擔下に雨宿りをして居ました。やがて雨が晴れたので、其商人は步行の不自由な吾子の車を誰にか押させて吾家に送りたいと人を求めて居るのを見て、其宿無の男兒は暫く躊躇して居ましたが、やがて勇氣を出して「私は今何か仕事を求めて居ます。何卒私に正直な働に依つて、正しい賃錢を得る機會を與へて下さい」と請求した。」

といふ話があります。此貧兒の生活法が即心の平和を得る唯一の道なので、幾日も食事らしい食事もせず、又安樂な家に疲れを休めた事もなく、唯彼方此方を流浪して步く身でありながら、他人に物乞をしやうともせず、況して他人の物を盜んだ事もなく、何か正直な働を見付けた時には、其仕事の難易と賃錢の高下とを問はず、之れに依つて幾分かの端錢でも得やうとする心懸の何と美しい事ではありませぬか。之れを彼勞働もせず、苦勞もせずして、一時に金持とならうとしたり、妄りに高い位置の方々を羨んだり又は成るべく、他人の目にたつ樣にと考へる不眞面な人々に比べて見れば、假令其衣は汚れ、其職業は賤くとも、其心は實に高尙な者であります。かゝる人は無意味な大金を得んよりも、寧飢餓に甘んずるでありませう。之れでも尙貧は煩悶の原因であると考へられませうか。

第三　運命に服從せよ。

吾々は一生の中に種々の運命に出逢はねばなりません。其運命は善くとも、惡くとも、必何か敎訓的の意味を含んで居る者で、不平なく之れに服從すると、種々有益な事を習ふ事が出來ます。例ば私がシャムに參りました折は雨期で御座いませんでしたから、濁つた河水の外に淸水を得る事が出來ず今日の飮料水を如何にして得やうかと心配して居りました時、圖らずも或日本の方が大切に貯へて居られた雨水を親切に贈つて下さいましたが、其時の感謝の情は殆言語に盡され

ませんでした。私は此時初めて世には如何に多くの金錢を出しても買ふ事の出來ぬ物があり、又かゝる物の多くは自然に與へらるゝ物で、吾々は平生かゝる貴き物を無思慮に浪費するのみで、之れに對して感謝の念を起さぬといふ事を覺り、其後は如何に些細な物でも必要に應じて得る事が出來る場合には、滿腔の感謝を捧げる樣になりました。或は又病氣に罹つて後初めて今まで感じ得なかつた他人の親切を經驗し、今迄冷やかに見えた此世も急に暖かく樂しく感ずる樣になり、又は病氣に苦しんで後初めて健康の有り難さを覺り、健康でさへあれば、富も榮華も何も望まぬと感ずる樣になつた例などもあります。是等は皆從來不幸に見えた事柄が、却つて眞の幸福と心の平和とを與ふる原因となつたのではありませんか。

要するに此世の中自身は煩悶ある世の中ではないのでありますが、吾々の感ずる世の中に煩悶が多いので御座いませう。其故吾々は勉めて苦痛を快樂に變へる習慣を養ひ、之れと同時に快樂そうに思はれる者も之れを取る人に依つては、實に恐るべき災が其中に潜伏して居るといふ事をも了解して、覺悟のある、意味の深い、且眞に樂しい生活をする樣に心懸けねばなりません。

寸感錄

◉海老名主幹が過日神戸の婦人會講演から歸京された時の御話中に、日本の婦人も基督教の信仰で十年も養はれると容貌が輝いて來る。もう世界の何處へ出しても恥しいとはない、と仰せられました。十年といへは決して短日月ではありません。其間には我身の浮沈や一家の幸不幸や、種々なる運命の羈絆にまつらはれることがありませう。殊に婦人は一家の不幸を一身に引うけます。其間を確とした信仰をもつて、一切をたゞ神樣に御任せ申し、憂にも喜にも神樣と共に事をなして其日々々を送る人には、確かに人知れぬ温かい悦があります。斯る生活をなして居ると人の容貌か此の世ならぬ光をもつて輝いて來るのは何も不思議ではありません。

◉煩悶なくして絶對の平安ある心となるには、何うしても自分の小なる我を棄てゝ、力ある大なる神に頼る外ありません。小くして弱い我をもつて此浪風激しい世の海を渡らうとするから、一身一命をも危くすることがある樣になるのです。もし大きな汽船に乘つて行けば、決して難船や覆沒する氣遣はありません。只此船に乘るには何事も神樣に御任せ申すといふ清い心が必要なのです。

◉婦人は奥幽しい所ある程其の性格を美くする樣であります。奥幽しいとは他から見た感じで、此感を與へるものは言行を適度にするといふことにあると思ひます。適度といふことは其人々々によつて違ひませふけれど、私は滿に至らぬこと八分目程の氣持てあると申したいのです。つまり物と人に對する謙遜であります。十分にしたい所を七八分に切上げて居る婦人は何となく奥ゆかしい所がありて人から敬愛されて居ります。化粧などにしても濃艶な厚化粧より、少し薄い所が却て人に快感を與へるではありませんか。

◉たとへ年少或は目下の者であるにせよ、婦人が別に親愛の關係ない男子を呼ぶ時、呼び捨てなどにするのは聞よいものでありせません。自分では偉いつもりてせふけれど、傍から見れば其人の却て卑しいことがわかります。（あ、い）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

思想

泰西諸國に於ける婦人の政治運動

早稻田大學教授　安部磯雄

先年英國の婦人達が國會議員選擧權を得んとて激烈なる運動をなし、終には國會議場などで亂暴なることをしたといふので、我國の新聞紙はひやかし半分にこれを報道したのであります。然し婦人の選擧運動を以て單にお轉婆連のから騒ぎだと侮り、これに對して愼重なる研究をしないのは餘りに輕卒ではないかと思ひます。今日文明國と稱せらるゝ所に於て婦人の政治運動が多少行はれて居ない所はありますまい。それで議論を試みるよりも寧ろ事實を陳べた方が有效であると思ひますから、此處に泰西諸國の婦人政治運動に就き少しく紹介することに致します

丁抹に於ては昨年始めて婦人に市會議員選擧權を與へました。然しこれには財產資格がありますから、丁年以上の婦人が悉く選擧權を有つて居るといふ譯ではありません。それで進步主義を有する婦人は是非共婦人全體に選擧權を與へたいと目下激烈なる運動をして居ります。諾威に於ても二年前に婦人の國會議員選擧權を認むることになりましたが、矢張財產資格があるので、今は丁年以上の婦人にして選擧權を有して居るものか五分の三位であります。これではならぬと有志婦人は選擧權擴張の爲に盡力した結果、先般國會もこれに同意を示したといふことですから、婦人が悉く選擧權を得るのは遠いことではありますまい。瑞典に於ては今年になりて終に此理想が實現せられました。即ち上院も下院も大多數を以て二十四歲以上の婦人には悉く選擧權を與ふるといふことを可決しましたから、これは立派な普通選擧であります。

濠洲の婦人は選擧權を得たる點に於て恐くは世界中先鞭を着けたものでありましよう。ニユーサウスウエールス州が婦人に市會議員選擧權を與へたのは千八百六十七年の事でありますが、其後ヴヰクトリヤ、西オーストレリヤ、南オースト

レリヤ、タスマニヤ、クキーンスランドの諸州もこれに傚ふこと丶なりました。其次には州會議員選擧權を婦人に與ふるといふ運動も起りましたが、これも見事に成功しました。唯近年まで州會議員選擧權を婦人に與ふることを頑强に拒んで居たのはヴヰクトリヤ州のみでありましたが、昨年十一月第十五回目に提出せられた同議案は終に上下兩院を通過したのでであります。而して千九百二年には國會議員の選擧權も婦人に與へらるゝこと丶なりましたから、今や濠洲の婦人は市會議員、洲會議員、國會議員を選擧あるの權利を有することとなりました。

以上陳べたのは單に選擧權でありますが、婦人が啻に選擧權のみでなく被選權を有して居る實例もあるのです。アイスランドは大分前から婦人に市會議員選擧權を與へて居ましたが、一昨年に至り更に一歩を進めて被選權をも與ふることになりました。昨年の選擧には首府ライクヤヴヰックに於て數人の婦人が市會議員に選はれたそうです。露國の一部をなして居るフヰンランドは實に羨むべき程の文明國でありますが、千九百六年の國會議員選擧には婦人も被選權を得たゝめ十九名が選擧せられ、千九百八年の改選には婦人の議員が二十五名に增加しました。これは第一回選擧に選ばれたる婦人議員がよく其適任であることを證明したからでしよう。

昨年の法令に據りイングランド及びウエールスの婦人も亦市會議員に選ばるゝことが出來る樣になりました。オルダム市のリース夫人は同市の議員に選ばれ、美術館及び圖書館などの方面に於て大に敏腕を振ふて居るそうです。ハイワイコム市にもダーヴ孃が議員に選ばれたのですが、同じく圖書館病院などに關し、殊に排水問題に關してよく其職責を盡して居るといふことを聞きました。英國に於ては婦人が啻に市會議員となつて居る許りでなく、市の吏員となつて居るのも珍らしくないのです。例せばチユスターフヰールド市にアレキサンダー孃といふ醫學士の稱號を有して居る婦人がありますが、此人は市役所の吏員であつて、衞生部の副長となつて居ます。愛蘭土のリッチモンド市にマクドーナル夫人といふのがあつて、これも市の吏員でありますが、市立瘋癲病院の理事であります、殊に珍らしいのはコーデリー市のリッチモンド孃が市有瓦斯事業の支配人を勤めて居ることです。

婦人の選擧運動は決して一時の出來心から湧いて來た輕佻浮薄の問題ではない樣です。婦人は兵役に從事しないから選擧權がないのだといふ議論があれば、婦人の方では喜んで兵役に從事しようとまで言ふ樣になつて來ました。本年二月中旬頃の『萬朝報』に左の如き記事がありましたが。多分皆さんも御記臆であらうと思ひます。

男子と同じく選擧權を得る上は同じく兵役に就かざるべからずといふことは婦人選擧權獲得運動に對する有力なる障害なりしが佛蘭西婦人同盟の會長マドレーン、ペルチエ婦人も兵役に就くべしと論じ、直接戰爭に從事するは軍人の三分の二に過ぎず他の三分の一の仕事即ち被服靴等を造り厨房を守り衞生疾病に關する一切の事務治療を司る等は男子と同じく之を全ふし得べし今後此思想が普及するに至らば必ず實現せしむること疑なきを以て先づ議會を動かして之に贊成せしむることを要すと唱へつゝありといふ

これは隨分突飛なる說の如く思はれますけれども、婦人の兵役といふことは決して夢ではありません。本年の四月二日『萬朝報』に現はれたる左の記事を御覽なさい

英國の女士官

徵兵制度を有せざる英國は、本年一月志願兵を募集したるに、折柄曾て本紙が報道したるデュ、モリエの「英人の家庭」と題する愛國劇が興行されたることゝて、志願者の數平年に倍するの好成績を得たるが、其志願者の中には婦人も亦尠なからざりしを以て、婦人志願者中より二十名を選拔して一小隊の傳令使を置くことゝなし、エルネスチン、ハントと云ふ美貌の貴婦人を擧げて少尉となし、小隊長に任命せりといふ。從來婦人選擧權獲得運動者が受くる反對說の內、婦人は兵役の義務を分擔せずといふことが最も有力なりしが、此の小隊の成績が良好なるを示さば、同運動者の鼻息一入荒くなるに至るべきか

これを見れば婦人の兵役といふことも全く不可能のことではありません。故に兵役問題を以て婦人選擧權を拒むの理由とすることは將來不穩當と認めらるゝに至るだらうと思はれます。

婦人に選擧權及び被選擧權を與ふるの可否に就きては餘り長くなりますから茲に論ずることは致しません。然し以上陳べたる所の事實に就て考ふれば、平和主義、平等主義の最も盛に行はれ居る所、中央政府が餘りに暴威を振はない所に於ては多く婦人の權利が認められて居る樣です。若し將來世界の强國が一層平和に傾き人權を重んずる樣になれば、婦人の選擧權及び被選擧權を認めるのは自然の順序であらうと思ひます。自ら兵役にまで從事して選擧權を得んと熱中して居る婦人の心には慥に我等が尊重すべき要求が燃えて居るのです。これを冷視して居る男子は宛も臣民の要求を無視して居る壓制君主の如きもので、自己の暴戾と無識とを表白して居るものといふの外はありません。

良人の愛情を得る妻と失ふ妻

海老名みや子

一昨年の秋であつたと思ひますが、かの夏目さんの虞美人草が出まして、多くの人々に興味をもつて讀まれました。私も愛讀者の一人で、おしまひまであかず讀み通しましたが、其中に藤尾といふ女があります。自我の化身ともいふべき人

物で、氣儘三昧に短かい一生を終りました。私は能くもこんな思ひ切つた人物がかけたものだ、まさかこんな女が實際あるものかと思つて居りましたが、聞く處によりますと、實際あるそうであります。しかも近比は雨後の竹の子の様にあすこにもこゝにも、ずい分見えだしたそうですが、マアなんと困つたはなしではありませんか。こんなお嫁さんをもらつた日には、西むけ東むけ妻君の御意のまに／＼お從ひになる旦那様ならいざしらず、たとへば夫婦さしむかひでも、なみ一通りの男子では、終日爭論の絶へ間はなからうと思はれます況や從來の風習に從ひ、父母弟妹同居といふ日には、家族のものは片時も安き心はありますまい。想像するだに寒氣を生じます。元來我々日本婦人は、むかしよりいろ／＼の境遇を經て、いろ／＼の事情の下に從順献身の徳を養ひ來つたものでありまして、源遠く其根深くして、容易にとりさられないものだと心得てをりましたのに、少しく自由の空氣にふれては忽ち吹き去られる様では、さても心細ひことではありませんか。固より藤尾の様に、自ら承知の上で、自我を通しぬく女はそう澤山あるものではありますまいが、何を申ても嘗節がら、女もずい分遠慮なく口を開きて、場合によつて己れの意志を貫く事の出來る世の中、よほど注意を致しませんと世界に押出しても日本婦人の誇として居ります從順献身の美徳は、段々影をひそめておもひもかけぬ强情意地つぱりがあらはれて來ないともかぎりません。これは

わけの分つた良人の一番嫌ひ

で、一番苦痛を感ずるものであります。たとへば「おまへはこの比チト氣まゝが過る様だ、お母様などにも今少し氣を付て上る様にしたらばどふだ」と注意されると、すぐむつとして「ハイ私は氣まゝ育ちで、氣付ずやでございます。こんなに生れ付きましたのだから仕方がありません」と二の句のつげ様がない。「おまへはあまり子供をあまやかし過ぎる、そういひなりほうだいにさしてはいけないではないか」といへば「だつて子供が云ふ事をきゝませんもの」と、更に其注意を容れて省みる氣色はない。私はこれを名づけて

分らずや

と申たい。この分らずやほど困つたものはありません。それなれば、どふしてこの分らずやになるであらうかと申ますと、私はこれは從順の修養のしそこないから來るのだと思ひます。私の六七才の比よく姫鑑といふ本のたはなしをきかされました。其中にこんなおはなしがありました。むかし某の妻夫の出仕を送るとき、夫の袴のねぢれたるに氣付、ア、あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なたのお袴がと注意をした爲、夫は嚇然として怒り、妻として夫にさしで口をする、不屈もの、けふかぎり離緣を致すと申渡されました。女はすべて從順にして公の事は申までもなく、どんな事にも口を出してはならないものだといふ敎訓のおはなしです。これが日本婦人の從順の養ひ方で、女はどんな事にも從順なるべきものだと、自ら覺悟して、明らめて、他意なかつたものであります。如此にして從順の德を養ひ自れを殺して他人の爲に生きるといふ貴い德を養つた代りに一方理性は全く其道を塞がれてみがゝれなかつたので、理非の辨へが付きにくゝなつた。其結果がこの强性意地つばりを生じますので、決して不思議ではありません。其證據には優しくつて、温しくつて、何んでも云ふ事をきゝそうな女が案外强情で、意地つばりで、夫にもてあまされる例が多く、却て少したてんばでもハキ〳〵した方が從順な妻となるものであります。これは序ながらお若い男子方の嫁撰びの御參考に供へますそれでなんでも

わけの分つた女

とならなければいけません。わけの分つた者は第一自分はどんなものだといふ事が分ります。高等女學校を卒業して、あとわづか一年二年、茶の湯さし花お琴ピアノとお稽古をしてサアこれでりつぱな賢夫人になれると心得るのは、わけの分らぬはなしで、わけの分つた人ならばマアこれで多少の緖を得た、これからが本式のお稽古の始まりで、嫁として妻として母として、事〴〵に一心に修行をしなければならないと心がけます。そふなると我落度を注意されるさ、恰も大海に水を流すが如く、すら〳〵受入る事が出來ます。こんな妻でありましたらたとへば多少の欠點がありましても、夫としてどんなに快いでありましやう。自然に敬愛の情が湧ひて來る事と思ひます。

今一つこゝに注意を加へなければならない事があります。やはり從順に關係のあることで、むかし流の人よりもハイカラ流の人に多いのです。それは何事によらず

一拗ね拗ねる

といふ癖です。四海波靜かに治まり過ぎて、何の波動もなきのはあまりに興ない心地が致しますから、たまには笑談半分一拗ね拗ねて、小波瀾を起すのも面白からうと思ひますが、高じては決してよいものではありません。たとへば男子方といふものは無雜作なものですからはやお晝も過ぎた比「どふだけふはお天氣もよし幸ひ少しの日間が出來たからお花見にでも行ふではないか」といはれる。無論いやな氣持はしない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、「けふはもふおそいからこれから化粧をして出かけると、ゆつくり遊ぶ日間がありません。マアよしましようと。」一寸拗ねる折角妻を喜ばせやうと思つた夫は、この返答にはよい氣持は致しません。おだやかな人だと、それでは又この次のと出るが、十中の八九はそれならおまへの勝手にと云ひたくなる。折角のお花見もめちや／＼。それと違つて、「マアお珍らしい、よくお日間が出來ましたねへ、それでは早速出かけましやう。」と千載一遇復と得難いと云ふ氣持になつて、手放し難い仕事もさし置き、仕度もそこ／＼出かけますと、內も外も春の氣につゝまれて、はづか二三時間の散歩に、心も體ものび／＼と、日比の鬱は洗ひ去られて、新しい元氣を持て歸る事が出來ます。なんと少しの心の持方でかはつた結果を見るではありませんか。こんな事は年に二度や三度のことではありません。日に幾度とある事で、其度々に一度凹をふらなければ氣が濟ぬといふ樣ではこまります。夫に氣まづくさせるばかりでなく、舅姑あれば尙の事、すべて一家の波瀾はこんな事より起るもので、終にはとり返しの付かない事に立至ります。世の中に立ちまじつても仲間の平和を害し、先づあの方の御機嫌を伺つて置かなければと、六ケしやとして取あつかはれます。こうなつては誠にいやな事ではありませんか。是非ゐらがつて自分の意地をたてねばならぬ事は世の中にそうたくさんはありません。電車で行ても汽車で行ても横濱に行かれます。人が電車で行ふといふのに、自分は是非汽車で行くといふ必要はないではありませんか。何事も人と共にする程樂しい事はありません。況や一生を共にする夫と妻とは影の形に添ふが如く行動を一つにしなければならないと思ひます。

童話の目的

石野爲之助

茲に私が童話と云ふて居りまするのは、家庭及小學校又は幼稚園若くは日曜學校で兒童の爲に談話する昔噺、假作話即お伽噺、英雄談などを含めて申すのであります　今日はお伽噺が多く用られ、又幾多の出版物も出て居りますから其撰擇も從つて容易でありません。子供が話をして呉れろと云ふ言葉は、何れの家庭に於ても、或は又學校に於ても、殆兒童の口癖と云つてもよい位です、或時代に子供が話を欲すると云ふことは自然的であります、此盛なる需要のある處へもつて來てするならば、如何なる話でもしてやりさへすればよいかと云ふに決してそう云ふ譯のものではない、例へば飢へた子

供には食物であれば如何なるものでも與へて差支へないかと云ふに決してそうでない、成るべく消化しやすい營養分の多くあるやうな食物を撰んで食べさせなければならぬと同様で、子供が童話を聞きたいと斯ふ云つたときには矢張り材料を撰擇するといふことは、毎でも保育する人、又教育の任にある人の注意を要すべき處である、西洋の諺に子供に向つて善き話を巧に聞かせる人は子供の中の帝王となることが出來ると云ふて居ります。俗氣のない天眞爛熳花のやふな兒童の王となることは愉快なことであります、天國に入るべき者の型として基督に賞揚せられた兒童に喜んで聞れんと思へは自ら又天眞に立歸り僞らぬ親心をもつてせねば能はぬことであります。此れ凡人のなし能はぬ所であります。それで童話と云ふものは子供を樂しますと云ふ外に、何か教育上の立場から見て確かな目的がなければ決して童話を教育上に用ふべしと云ふ理由は立たないのです。決して子供に話を聞かせることが快樂を與へると云ふことばかりでないと云ふことを忘れてはならない。寧ろ快樂を與へると云ふことは、附屬の問題で、主となる所の目的は何か教育上に利益のある事柄でなければならぬ。童話を授ける目的となるべきことは色々ありますが、先づ左の六ケ條に區別することが出來ます

第一 の目的は正しき言葉を敎ふるにある、即正しき發音をやつて文法に從つて話をする日本語に親しませるのです。子供が話を聞きたがる時代はまだ文字も書けないし、巧に話も出來ない頃からして話を聞きたがるものである、故に兒童は無意識の間に童話を聞きつゝ言葉の練習をなすのです、故に童話には成るべく正しき言葉を用ふることを忘れてはならない。

第二 の目的は想像作用の養成と云ふことであります、是は童話をなす其初めに必要なる目的であります。子供の思想が稍發展し來れば自然に想像力が盛になつて來るが、其段楷まで進みまする以前に於て、矢張こちらから想像作用を發達せしむるやうにつとめねばならぬ。故に初めは子供が話を聞きたがる時に、能く發問體の方法を以て話をしながら、子供に尋ねると云ふやうな手段を用ひて行くことが大切であります

第三 の目的は智識と興味を與ふることです、童話の材料には自然の事も人間界のことも這入つて居りますから、種々の智識養成の點に於て材料を適宜にこちらで入れて行くことが出來る。又話の仕組に就て子供に興味をもたせると云ふことが十分に主婦及教育者の掌中にあること、即子供に感動を與へてさうして玆に興味を作ると云ふことは、比較的にやり易いことである、常に童話の仕組を作るには先づ此童話を授けたならば如何程の智識が與へられるかどの點に就て興味が與

へられるかとの點に就て考へなければならぬ。

第四　の目的は同情心を發揮すると　。凡そ兒童の同情は人の苦痛又は不幸に向て餘程能く起るが人の快樂及幸福に就て同情心は少いものである。同情心を養ふには、快樂苦痛の兩面に發達するやうにせねばならぬ。現代兒童の傾向は兒童心理の自然的方則かも知れぬが、他人の苦痛といふものゝ方にのみ同情を發し易いやうになつて居る。併し兒童の保育又は敎育と云ふ點から云へば、他人の幸であれば共に歡ふと云ふ同情を發達せしむるやうにせねばならぬ。

第五　の目的は明に道德上の眞理を知らさしむることであります。童話は多く道德的の原因結果を具體的に顯はして善行は良き報を得て、惡行は惡しき報ひを得て居るといふ事を示すのは非常に適當なのであります。子供をして容易に實社會から得ることの出來ない天の正しき賞罰を一つの話の中に含めて話すからして、能く其關係を會得するやうになります。又人間の社會と云ふものは中々理想上の立派な社會と云ふ譯には往きませぬからして、實例を求むれば動もすれば敎育上の目的を達するに十分でない又滿足でないやうな例が多いのであるけれども、童話には其欠點がない、且敎育と云ふ考をもつて居る人が撰擇し或は作出すのであるから此目的を達するには十分である。

第六　の目的は文學上の趣味を養ふことであります。此事は稍ともすれば其實用と云ふ點から遠いと云つて排斥せられ勝でありますけれども、人間の生活にとりまして、啻に人間の實用と云ふことだけに滿足して居るものでなくて、多少は自分の娯樂と云ふ方もなければならぬ。此美的精神を養つて行くといふことは近頃敎育學上の所謂美育と云ふやかましい問題で無論大切なことでありますから、此文學上の趣味を養ふと云ふことも童話に於て矢張り必要な目的となるのです。

以上は童話の主なる目的であるが、こゝに童話の副産物として價値の擧ぐべきものがある。即童話に依て情操敎育を施し得ることである。又此に依つて兒童を懷かせる事が出來るのである。諸君も御存知のアラビヤンナイト卷頭の一賢婦人が噺の力によつて暴君の心を和けたと云ふ仕組で書いてある如く良き童話は兒童の心を和げ兒童を懷かしめ得るものである。善良なる母及日曜學校敎師は兒童が自然に懷いて來る德を備へて居らねばならぬ。されば母及日曜學校敎師は自ら其德を養ふと共に、或程度までは如何にせば兒童が己れに懷くかと云ふことを工夫する必要があると思ふ。童話は其一材料として亦適好なるものでは有るまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

成績の悪い子供を矯正する方法

女子高等師範教授　宮川壽美子

英國の諺にも眞實なる子供を持つには先づ其子供を信ぜよ。If we want to have a truthful boy, we must trust him といふ言が御座いますが人を取扱ふには此方法によらねばなりませぬ。私は兄弟の内で中の者で、俗に中は强情で意地が惡く、惣領は責任を感じ從て溫和で、季は人に愛せられ從順だとか申しますが、私も其通り强情者で、人の言ふ事は聞かず、至つて我儘者でありました。然し時々遠方から懐しい叔父叔母等の來られますと、多少善く思はれたい、又以前よりは善くなつたと褒められたいと、子供ながら心中に構へ込んで待つて居りますと、内のものなどが此子は中の者で、一番强情で内中での持て餘し者でありますと、挨拶に迄、言はれますを聞きましては、幼な心にも、失望し、始めの決心も鈍り自ら自暴自棄し、例令自分の様な者は、少々善事をしたりとて、何の甲斐もなしと思ひ、努めて言行を改めんともせず、最初の意氣込も失せて、決心を遂行せんともせず、又自分の非を悟れども悔ひ改めんともしませんのでしだ。其後私は小學校を終り、英和女學校の寄宿舍に入りましたが、兩親の膝下を離るゝ事は始めてなのです。其時母は私に向ひ、今迄には我儘をして過して來たが、之からは他人の中に交りて生活するのです。之迄はお前が惡い事をしても、内の者だから何度言つて聞かせましたなれど、他人は始終言つてくるゝものでもなく、能く〱の時でなければ、注意もしてくれぬものだから、若し誰からでも、忠告でもせられた時は、謙遜して聞かなければ、つまはじきさるゝから、能く氣を付けよと、申されました。すると私も今迄自分ながら我儘なるを知つて居りました故大に恐れ謹愼して入舍致しました。

それから内に時々歸りましても、寄宿させてから善くなつたと褒められる様になり、從つて自分の信用をも得た事を自覺しまして、益々改めんと大に勇氣を得ました。之れは私の一身上の經驗でありますが、私の親類に成績の惡い子供がありましたが、家内中の者が多人數して馬鹿々々といひ、食事の時も、遊戲の時等にも、他の子供と見比べて、其子供の頭は小さいとか様々批難をします、當人も試驗の成績の惡いのみならず、種々の攻擊にあひ、常にそれを苦にして居りました。それを見ました私は同情に堪へませず、何とかして矯正してやりたい。それには先づ自分が信用して居る事を其子に知らせなければならぬと思ひ、それから夜一處に勉强して、何學科が好きか嫌いか、何かむづかしきか試驗などゝ云ふもの又點數はあてにはならない、心かけ善く一生懸命にすれば、例令成績は惡しくとも、取り得のあるもので、何時か世の中に出られるものだから、決して自暴

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自棄はするものでありません、只心掛けと品行とさへ正しければ人はどうでも、私はあなたを信し助けますからと樣々勵まして居りますと、中學も卒へ專門學校に入學しましたが、一生懸命に勉めました甲斐あつて、漸々成蹟は上り、遂に甲の部に迄進み、私をはしめ親戚のものも驚きかつよろこひ手紙電報にて祝つてくれました。するとこの子は夫れより周圍の人等が自分を信用せる事を自覺し、又よき成蹟が表はれて來ましたので、自ら精神も愉快となり、益勤勉にして、全く中學時代とは異つた人間となりました。或る時私はその子に其わけをたつねましたら、中學の頃の試驗のさらへをする時にさきの事を思ひ、また成蹟が惡ければ人より批難されんといふ苦痛から、眞實に安心して勉强する事が出來なかつた故であると申ました。若し私が彼を勵まさなかつたならば、彼は如何なる人となつたでありしよう。

世間には、繼母子の關係など面白からぬ事を耳に致しますが、繼母なる人は、先づ其子を愛するには、信ずるといふ事が第一で、また其子に己れが彼を信用して居る事を、其子に自覺せしめねばなりません。それをするには常に缺點をあげずして長所をあげ、其を見とめてやり段々勵まして行かねばなりません。例へば字がかけて算術ができぬ子があるとすれば、其子の字の上手なるをほめおまへは字が良く書けるから良い、その通に試驗の答案も書く樣にといふ樣にして、自然に算術もよく勵むやう奬勵せねばなりません。教師となつて級を受持ちても其通て其各人の長所を見、其短所を教へ導くやうにし教師も生徒も相互に相愛し相信ずるやうになり始めてひかまず自ら自已の非をも悟り、大に悔ひ改め、健全なる人となり、遂に社會にたち有爲の一生を送る事が出來ると思ひますから、人は相互に信せねばなりません。

下女の使ひ方

元良文學博士夫人　よね子

私に下婢の使ひ方に就てお話をせよとは恐れ入りました、實は甚困り入りました、何事にも未熟な私こそ御教示を願ひ度いのです、どうして他人樣の御參考になるやうなお話などが出來ませう、それでも是非との仰なら據御座いません、只自分だけの婢に對して覺悟及び實驗（何だか演説の題が何かのやうですれ笑てはいません）を少々申し上げて見ませう

下婢は主婦の助手

高貴の方々は別として、我々中流社界の者、少くも私自身は婢といふ者は主婦即ち自分の助手であると思て居ります家の中の用事は一切自分が爲すべき筈であるけれども、用事が多う過ぎて一人では爲し盡されぬから、婢を置て此に手傳はせるのである。其故に婢の不行屆は即ち自分の不注意の結果であつて、婢の不行屆の爲めに御來客に失禮をしたり、家族の者に不快の感を與へたり、其他不都合な事があるときは其責は自分が負はねばならぬ、と、かう覺悟して居ります。そして成るべく躾るやうにと努めては居りますが、とかく見落しがあつて困りますが、何分私自らが大いに躾らるべき者ですから、其下に在る婢も實は災難でございます。

一體婢を躾ることは自家のため、又婢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自身のため大利益であつて、主婦は婢に對する義務としても是非爲さねばならぬ事です。躾られる當時は嚴いとか喧いとか思ひませうが、後ではよく解て喜んでゐます。只注意すべきことは婢に過失などあつた場合に、頭からがみ〳〵叱り飛ばさないで、殊に御來客の前などではひかへて時を見て懇ろに敎へることでございます。此は口で言ふのは易いが實行は中々六ケしいから、よく氣をつけねばなりません。婢が二年なり三年なり我家に居る間に、幾分なりと身に光をつけてやるのは主婦の責務であつて、又興味あるわざだと思ひます。

下婢と一口に申しますけれども下婢の重なる役目は炊事即ち家族の生命の本ともなるべき食物の世話をしたり、又掃除とか洗濯とか、いづれも衛生に大關係のある仕事をするので、實は一家に取りて重要な人間であります。まして婢も神の子供でありますもの、雇人だといつて輕しめる理由は決してないと思ひます。使ひながらも成るべくいたはつてやるべきと思ひます。私が子供の時分父がよくいふのを聞きました大雪やあれも人の子樽ひらひといふ川柳がある、奉公人だからとて無慈悲な扱ひをするなど、又「我身をつめつてひとのいたさを知れ」とかいふことがあります、私は成る程と思ひます。一度で濟む使を二度にも三度にもさせぬやう、又出さずとも濟むことなら大雪・大雨、また夏の炎天や夜分遲く使にやらぬやうに氣をつけるのがよいと思ひます。成るべく無益な勞力を費させぬやう注意しますれば、用事も捗ゆきますし、爲る者も樂です、要するに婢に對して想ひやりが大切であります。

下婢の雇入れ方

さて婢を雇ひ入れるにはどうするのがよいかといふと、一番の近道は雇人口入所といふ家に申してやるのでせう。けれどもこの方法は全で鬮を抽くやうな氣が私は致します。一概に惡い者とばかりも申されません、時には得難い人物に當ることもありますけれども、其は極く稀で、大方はどんな者をつれて來るか分らぬと覺悟を極めて居なければなりません。若し他の方法によつて性質や身元の確かな者を雇ふことが出來れば、最も安全でございます。私方では所謂「けいあん」即ち雇人口入所から雇たことはあまりありません。長い間に隨分度々婢が代りました。また種々な人が來

ました、が、とても使ひきれぬと思て返した者はあまり澤山はございません。けれども不幸にして九年も十年も續けて勤めた者は一人もありません。長くて四五年あるひは二三年「私は廿五まではきつと御奉公いたします」などゝいつて威張て居た者が、一年經つか經たぬに例のお嫁入りをしたのもあります。折角慣らせてよい加減間に合ふやうになるとそろそろ緣談が始まり、遂には「御暇を」と出られるので閉口してしまひます。けれども致し方がございません。又かういふ人たちから折々音信でもあつたり、又近間に居る者は子供など伴れて訪ねて來まして自分等の家庭の模様などはなしたり、又我家の子供の幼な時代のことなど話して、互ひに昔を偲ぶのもたのしみなものでございます。

　婢は都會慣れた者と田舍者と、どちらが使ひよいかといふと無論使ひごこにも又其人物にもよりますが、身體が壯健で性質が温良で其上遇鈍でないなら、質朴な田舍者の方が御飯炊ぐらゐなら却てよいかと思ひます。其代り一通り慣すまでには一仕事です。第一言語の使ひ方に一骨折れます、奇妙に火を燃すことだけは大抵どの婢も上手です。恐らく物理化學の専門家も眞似が出來まいと思ふ位ゐです。あまり上手過ぎて却て御飯が焦げついたり、お汁が煮つまつたりします。又お砂糖やお醤油がはいりすぎて、あたらお茶が味を失つたりすることは珍らしくはありません。それからお掃除をさせますと、箒が雉刀になる、なましぼりの雑巾で板の間にのゝ字を習て角い板を圓く濡すなど大抵これをやらぬ者は無いくらゐです。こんな事をぼつ〳〵直すのも主婦の役目と思ひます。一番慣らせ苦いのは定まつた場所に定まつた物をきちんと置くことです。婢の數は多い方がよいか、少い方がよいかといふと、無論家々の生活の度によるもので用事が多ければ人手も多く要るわけでありすけれども、多ければ多い程使ふ者の氣骨は折れると思ひます。殊に同じ位の年齢で資格があまり違はぬ者を一緒に置きますと、調和か面倒でして用事は割合に捗取らぬものです。それはおためしになつたら直ぐわかります。

私の經驗

序に恥の棚卸も致しませう、左様、私が初めてマッチの箱然たる家を持ちましたのは丁度今から廿八年前でした。隨分古いお話です。其頃は主人と私の祖母と私と三人暮し、用事も少うございましたから當分下婢はなし、長男が生れました時分に一人置きました。其から明治廿一年に主人か米國から歸る、書生が來る、追々子供の數がふゑるといふ都合で婢を二人にいたしました。其後また一人で間に合はせたこともありました。只今は裁縫學校へ參る學生を一人預かつて居りまして、此人が朝夕掃除其他の用事を手傳ひ又餘暇に裁縫も助けて與れますので、婢は一人でございます。人手が不充分な處へ私が意氣地なしと來てゐますから、家事萬端不整頓でお恥しい次第でございます。

　私方では春から夏にかけて毎朝六時に出宅する子供がありますので、婢は隨分早く起きなければなりません。朝の炊事は婢が一人でなします。掃除は皆々て分擔でやります、晝飯は主人と私と婢、其

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

他の者は辨當、晩は一同一緒に食事を致します。晝晩とも無論私も手を出しますが、此頃は婢も大分慣れましたから、簡單なお菜の晩は婢が一人でも出來ます。炊事の外に月曜と金曜が風呂、其翌日が洗濯、まだ其他一週間中に割り當てある用事が澤山あります、又臨時の用事が始終ございます。けれども何か特別の用事のない時は、午前後とも少時間つゝ私の傍でぼろとぢくりのおつきあひをして居ります。私方には電燈、電話、瓦斯、水道などあらゆる文明の利器が備て居ると申したいが實はまだ何もないのです。それですから働く者のためには甚だ氣の毒です。けれども感心に別段不平も鳴らさずに毎日元氣よく働て居ります。或は私の耳が遠いのかも知れませんけれども。夕飯の後片付が濟むと自分の室に入つて、本を讀んだり字を書たり縫物したりして居ります。朝か早うございますから、夜分は隨意にやすませます。他人の子でも一の家の中に起伏して、互ひに助けたり助けられたりして居ますと自然情がうつつて惡くないものです。

家庭衛生談

醫學士 金子魁一

食傷の一夜

艶陽三月の花、そよ吹く風に散り去つたのは實に此頃の間であつた。今はその面影すらもない。樹木に咲く花は衰たが草花の盛りはこれからである。何處を見ても新綠の色鮮かで心地よく、晩春より初夏への移り行きで、暑からず寒からず一年の中で最も凌ぎよい季節となつた。

今日は敎會の日曜學校に遠足會の催しがあつた。毎日曜兎角欠席勝ちあつた連中も朝早くより集まり、日曜學校の先生でない人々も大分見ゑた。正吉は今年十三才、色の淺黑いよく發育した體格で、それに物覺もよく、學校の成績も優等で氣象もよく中々活潑な小供である。お父樣は某銀行員でお母樣も熱心な信徒である。だからどんな日でも正吉は日曜學校を休んだ事はなかつた。

雨はいつ降つても厭であるが、當日ばかりは尙更降らしたくない。折角の荒川堤の遠足もお流れになつては困る、と正吉は小な胸を騷がした。幸ひに二三日前から晴天續きであつたゝめ萬事愉快である。途中電車や滊車に乘つたが小供等には過ぎる程の運動であつた。併し皆元氣盛りの事であるし、先生がたも道すがら面白いお話をして下さるので、知らず知らず樂しく一日を遊び暮した。

家へ歸つたのは丁度七時頃である。お風呂に汗を流し去つて夕飯をすますと、晝の疲勞のためか非常に眠くなつた。正吉は毎日も九時に寢るのであるけれども、お母樣の許を得て早く寢ることにした。毎日の通り日記を書いた後、「天に在す私共のお父樣よ」と御祈禱をして枕についた。五分と經ぬ間に深く寢入つた。多分今日の遠足を夢みて居るだろう嬉しさうな寢顏である。

不圖目がさめた。もう夜も更けて居るが何時頃かわからない家内は寢靜まりて寂しい位である。何んだかお腹が急に痛む。胸に一ぱい何かつまつて居る樣で苦しい。堪ゑきれなくなつたのでお母樣を起した。お母樣は大變心配して、すぐ近

處に居らるゝ佐藤先生を御迎に遣つた。佐藤先生は博愛病院内科に勤めて居る人で、正吉の友達の清さんのお父様である。暫くすると先生が見れた。正吉は此時もう七轉八倒の苦みである。

「どうなさいましたか、」

「どうも夜分恐入ります。此の子が只今俄かにお腹が痛いと申して大變苦みますので、御出でを願つたのでお座います。」

「あゝさうですか。一寸舌を出して御覧なさい」

先生は胸部を打診聽して異狀ない事を確め、次でお腹へ手をあてゝ

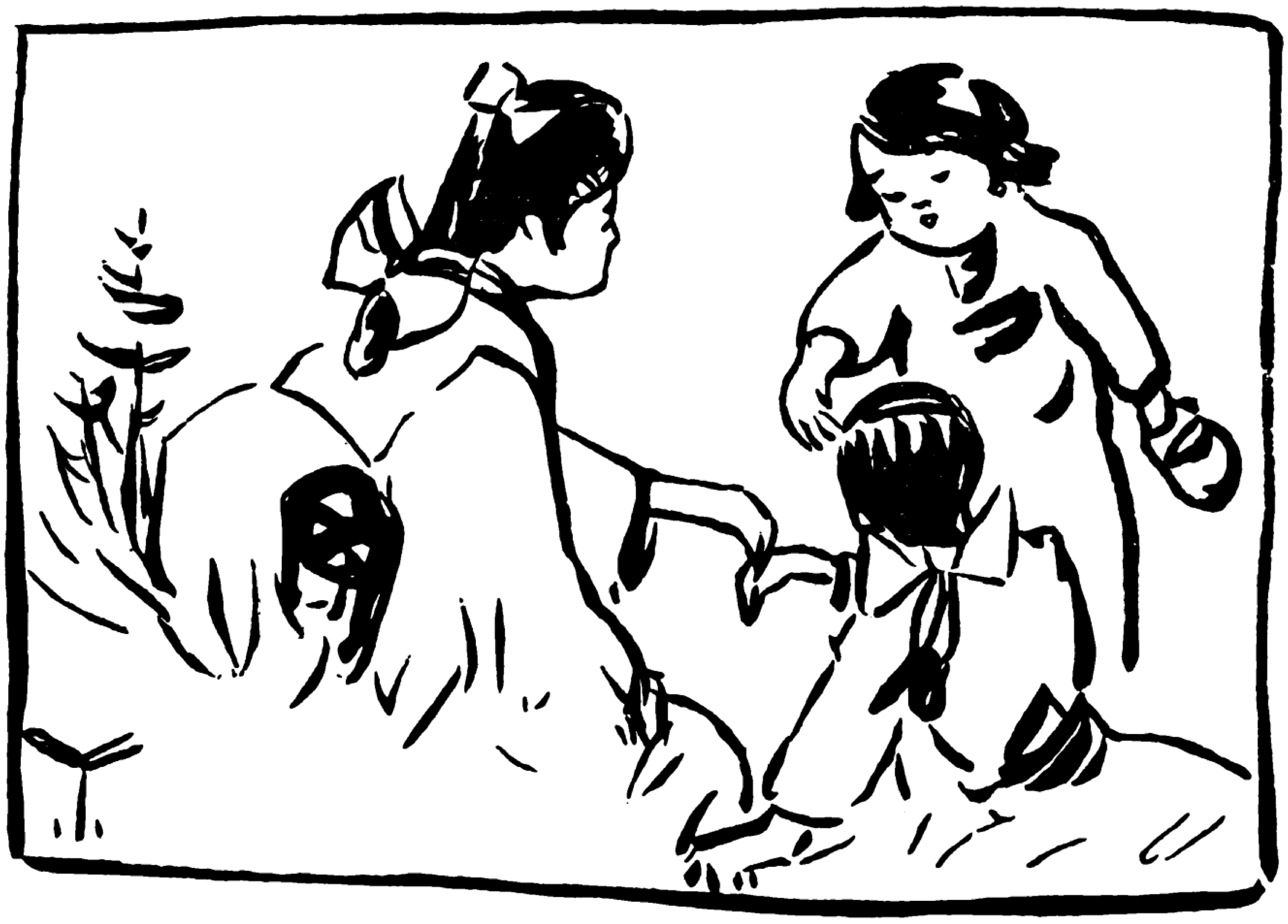
「どうです。こゝを壓すと痛みませんか」

「エヽ。」と正吉はわづかにうなづく。

「お休みになる前に何か召食りませんでしたか」

「別に何にもやりませんでした。只夕飯の時に鮪のお刺身を少しやりましたばかりでお座います」

「或はそのためかも知れません。新鮮な魚であつても心の時の胃の具合で病をおこす事もありますから、兎角胃の中に殘つて居るといけませんから早く出して仕舞ひませう」



正吉は先刻より吐氣を催して居るけれど、藥を飲む事は厭がるので

「一寸恐れ入りますが何か鳥の羽毛はありませんか」

お母様が羽毛を持て來ると其の中から一本引きぬいて熱湯でよく洗ひ、正吉の咽喉へ入れてさすると、反射作用で激しく吐き出した。見ると先生が云ふた通りお刺身の小さな片が殘つて居る

「若しこれでも痛むならモルヒネでも注射致しますが、さうせずとも鎭まるでせう」

尚先生は何やら紙に書いて女中を遣つてお藥を取寄せて

「之はお腹の中に殘つて居るものを下す藥ですからおあがりなさい」

砂糖の樣な甘い散藥を下さつた。

「それから湯暖保でお腹を温めると宜しいです。今處方を書いて上げますから近所の藥店でお求めになつて明朝よりお上げなさい。普通藥ですから何處にでもあります。何人がお出でになつても賣ります」

處方
次硝酸蒼鉛　一、二グラム
重炭酸曹達　一、八グラム
右爲三包、一日三回、食後用

とある。尚當分はなる丈消化のよい滋養品をとる樣にとお母樣に注意して歸つた
やがて正吉は、腹の痛みも減じ、疲勞のために眠入つて了ふた。翌朝少し遲く目がさめた。身體の疲勞は尚甚しく、食慾も進まないが、もう痛みはなく、惡心吐氣もなくなつた。

まだ日頃大得意の讃美歌「小さき露より眞砂より」を唱ふ元氣はないが、朝の御祈り丈は行儀よく濟ました、元來大の學校好きの小供であるけれども、病とあつては仕方がない二三日欠席する事にした。まあ今の樣子では別に心配する程の事もない、次の日曜日には元の活潑な生々した顏になつて、日曜學校へ見ゆるだらう。

家庭の情愛と家庭祝日

田鶴子譯

世の中で幸福と云ふものは何も人々のもちまへでもなければ、特別の境遇につながれて居るのでもなく、又名譽財產、功勞にあるのでもないのです。いかに世の中の財をすべて我がものになし得ても、幸福であるとは申されません。金銀を鏤ばめた宮殿よりも、質朴な藁屋の中に幸福があると云ふ事もお座います。此幸福はすべての人に與へられた小錢で、我等は屢々手の中に持ちながらそれを賤しめて居ります。家庭の嬉樂を作り出すのは我等で、此嬉樂が重なつて幸福を產み出すのです。そこでこの嬉樂といふ幸福の泉は、實に親子を引結んで居る處の溫い愛情から湧き出るのです。此親愛の源を問へば決して六ケ敷ものでも何でもなく、自然と家庭の內に搖曳く普通の習慣にあるのです。

子供は朝夕兩親に御挨拶をしなければならないのですこれは嚴正な務として勵行せねばならないのです。起きた時も寢る時も必ず御挨拶をするのが當然でありますが、大人になればこれは免されるかと思ふ人もありますが、それは大まちがひです。子供が心よく兩親の前に來て御挨拶をしない時は、大抵なにか心に咎めることがあるので、自分ながらも親の愛情に對してねうちがないと思ふ時であります。娘は取わけてこゝに注意せねばなりません。

抑々家庭の溫愛は相互感情の發表でありますから、年を取つても母の膝や手をはなれなかつた時を思ひ出させるのも此感情でありますから、これは失はぬ樣にしなければなりません。又家庭で父母兄弟たちの誕生日などを祝日ときめて一同面白く樂しむ樣にするのは至極よい習慣ではありませんか。此日は近親の人々が互に最もよく相愛し合ふ情思の中に、心が浸されたり擴がる時であるのです。皆樣は誕生日の翌日どんな感じがしますか。父上はあなたが前々からほしがつた品物を買つて下さいますし、姉上は縫取の襟を下さるとか、又母上はわざ〳〵お祝日の爲だと云つておいしいお菓子をこしらへて下さつたり、弟は花束を送つたり歌をうたつたりします。さ樣な注意が出來て居りますから、あなたは胸がをどる程うれしく猶更みんなを愛そうと云ふ感じが起りはしませんか。あなたがかわる〳〵お禮をなすつたり、寢床に入る前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

には「今日私にあたへ給ひし幸福を感謝します」との一言を神樣にさゝげた時はよろこびの涙が頰をつたはつたでせう。誰しも又此樣な場合には同じ感を持つのであります。ですから家庭の祝日は前から承知して居つて身分相應に自から手をかけたものを贈物にして其日を樂しく過す事を忘れぬ樣にしていたゞき度のです。老人は取わけ個條な注意を非常によろこびます。最早先生が短かくある方ですから、猶更此よい時を利用して充分にたのしくよろこばせなければなりません。

人事問答（質問隨意）

〔問〕私の娘を二人共女學校に通せて居りますが、兎角小說を讀みたがつて困ります。讀ますべきものでせうか、讀ますべからざるものでせうか。讀ましてよいとすれば其取捨の標準に就て伺ひ申上ます。（仙臺五十媼）

〔答〕小說を高等女學校通學時代の女子に讀ませるか否かに就いては、隨分多くの議論がありますが、人類間の出來事に興味を抱くのは、吾々人類の自然の傾でありますから、例へば地理でも、理科でも、之れを文學や人間の出來事に關係をつけて話しますと一層興味を起します。其故種々の傳記や小說を面白がるのは、少年青年の自然傾向であつて、之れが決して惡いと考へる事は出來ません。併小說は不良の者、例ば最下等な戀愛小說の樣なのを撰びます時には、讀者の精神に恐るべき惡感化を與へますから余程注意せねばなりません。

其故に之れを讀ませるとすれば、第一其年齡に應じて、自分の經驗に當てはめて、想像理解し得る程度の、最無邪氣な敎訓的の者を撰ばねばなりません。第二年長の娘樣などには、母親自身が適當の者を撰擇して、或は夕食後共に裁縫でもしながら、面白く之れを讀み聞かせ　其中の人物、行爲等に就いて互に批評しつゝ讀みますれば、終には小說の讀方を學び、之れに依つて人間界の出來事を正しく批評判斷して、誘惑中に在つても如何に其身を處置すべきかを了解する樣になりますから、非常に利益があります。

西洋では家庭にも、學校にも、町村にも、公私の文庫があつて、少年でも大人でも、敎科書又は研究書以外に必何か書物を讀みますから、見聞も廣く、人情にも通じ、常識にも富んで居ます。勿論少年青年のために書かれた有益の書物は澤山御座いますから、自由に是等の中から好んだ者を撰擇する事が出來、且母親が其娘逹と共に、書物を讀み合ふたり、批評しあふ事が常でありますから、終には批評的の態度で書物を讀み得る樣になります。

要するに小說は青年の女子に絕對的に禁ずべき者でないと信じますが、母親は彼等の爲めに親切に撰擇をなし　批評的に之れを讀み合うて、其讀み方を研究させますれば、精神練習に大なる力がありませう。

序に申し上げますが、青年に撰擇せしむべき適當な書物は多く「內外出版協會」の出版物中にあります。例ば近刊の「フランダース」の犬、「三家庭」「少女の操」等の如は敎訓と興味に富めるものでありませふ。又同協會や警醒社等の發兌書目を御取寄せになれば、內容の大略を附記した新刊書の名が分ります。

〔問〕私の娘本年十八歲、相當な緣談あるのですが、本人はしきりに嫌だと申します。本人の將來のた

めに嫁せしめやうか、このまゝにしておかうかと判斷に迷ひます。何卒記者樣の御明斷を願ひます（長崎の一隅、迷婆）

［答］御緣談の事は、御當人の御考を知らぬ他人には正しい判斷を下す事はむづかしう御座いますが、試みに愚見を申上げて見ませう。

此問題を解くには、第一御兩親が、御令孃の將來に幸福であると判斷せらるゝ要點と、第二御令孃が好まぬといはるゝ理由とを比較して判斷せねばなりません。

一體眞の結婚は互に其心を知り合ひ、互に相信じ相愛して後成り立つべき者であると考へますが、吾國の狀態では之が許されぬ場合が多く、全く知らぬ人を他人が媒介となつて、結び付けるのでありますから、年の若い方などには決心の出來ぬ場合もありませう。之れは實に無理のない事であります。

其故先御兩親と御令孃との撰擇の標準を比較せられ、若其人物に於て好ましからぬとか、其健康が如何はしいとか、職業が到底自分の趣味に合はぬとかいふのでありますならば、無理に勸められても、果して將來の幸福かどうか分りません。

又時には人物に於ては少しも缺點がないが、夫としては何となく氣が合はぬといふ例もありますから、御當人の好まれぬ理由が明かであるならば、無理に御勸めになるのは却つて將來の不幸を來します。併御當人が財産とか。位置とかいふ方面の不足の爲めに厭はるゝならば、能く眞の幸不幸の意味を覺られて、御自身に御決心が出來た上でありませんと、双方の不幸になりますから、矢張圓滿な家庭を作らるゝ事は出來ますまい。又未だ御年が若くて、單純にかゝる問題に對して氣が進まれぬのであるならば、果して此際强て結婚せらるゝ事が得策かどうか疑ひであります。

又一方には先方が如何なる程度まで御熱心に御令孃を望まるゝかも參考すべき事で、其人物も、血統も、健康も申分なく如何なる場合に望んでも、親切を以て御令孃を保護せらるゝ樣な方ならば、或は御令孃の御決心が確に出來るまで御待ちになる事が出來ますまいか。

要するに、結婚は物品の賣買の樣に、そう急に定める事の出來ぬ者でありますから、餘り無理に纏めて、不和の家庭を作り、取返へしの付かぬ樣な一生の不幸を來たしては双方の爲めに悲慘で御座いますから、能く御令孃の意のある處を明に御聞き取りになり、理由の正しい事はこれを容れ、御年の若い爲めに若誤つた考を有つて居られるならば、親切に之れを正して、十分御自身に決心が出來、一度嫁すれば如何なる境遇に出逢つても、夫と其苦樂を共にするといふ覺悟が出來て後、御決定になりたいと考へます。何事でも自分の爲す事は自分に責任を有つべきでありますが、況して吾身の一生を定める場合に於て、何の覺悟も決心もなく、全く他人の意志に依つて餘儀なくされたといふ樣な事は、將來實に恐るべき結果を來たすものでありますから、何卒十分に御熟考の上御令孃の爲め、眞に幸福となるべき御緣談の成り立たん事を切望致します。

蟻のおいしやさま

雄二「かあさま金魚が一疋そこにゐますよ」水鉢からとび出して水溜りでゝも泳いでるのかと思っていって見ると小さな死んだ金魚がすてゝある。雄二「ア、蟻が澤山來て居るお見まひに來たんだろう」弥夫「いゝへ蟻がお醫者樣だよ金魚の御病氣を見に來たんだ」

文苑

ゆき當りばつたり集

在オツクスフオールド大學 文學士 内ケ崎作三郎

一昨夜北英のボールトン市に開かれた進歩派基督教徒國民大會から歸つてみると、新女界第一號が届いてゐる。何れも面白く拜見したが、野口夫人の御人が惡くなられたには驚く。英國に來てからあまり居眠はしない。それは編輯係りの無線電信的の恨みの一念がもしれぬが、生活に規律があるから割合に疲勞がないためでもあらう。この國の模様も餘程解かつたからこれよりは餘り御迷惑はかけぬ。新人へはもう二三回分をこの休み中に送つた。今日午後から第三學期が初まる。論文は三つも書かねばならず、試驗もある。六月末になるまではまた〳〵御無沙汰するかも知れず、そこで午前中に何か一つ書いて野口夫人の御機嫌を取つて置こうと思ふ。とにかく婦人や小供に關する斷片的の思ひ出でを書こう。四月二十六日朝

一、娘は家族中の大學者

昨年九月のことである。サイベリア旅行中のことをかく。僕等を乘せた萬國寢臺會社の客車がウラジオストツクからハルビンに着いく時、多くの旅客が東清鐵道線から乘り換へて來た。中に初老の夫妻で廿位の娘さんを連れた英國人の一家族がある。支那人の勞働者の多い停車場につく毎に老夫人はプラットフォームに下りて、漢文でかいた宗教上の小冊子を配布してゐた。僕は多分宣教師の一行かと心得た。そのうちに滊車はイルクツクを過ぎた。これまでは同行の日本人との面白い話しで、退屈を忘れてゐたが、五六日も朝夕話してゐると種子がなくなつた。そこで僕は誰か西洋人と親しくなつてやらうと思うた。露人も獨人も多いが、何分會話が出來ぬので、英人を相手にする事が第一と合點して、或日前記一行の室に押し懸けた。此方も英國へ勉强にゆくといふので、向ふでも大に喜んで、色々語り合つた。この老紳士は宣敎師ではない、チエスターの實業家であるが、熱心なる平信徒運動の主唱者の一人のクラーク氏といふのであつた。一年近くも支那の敎勢を視察して歸る所で、同氏丈は先年日本にも來たことがあるといふ話だ。クラーク氏は、あなたの英語發音はあまり宜しくない。英國に行けば立派な發音を聞かれるから直ぐなほるだらうなどゝ注意をされた。娘さんは小作りな上品な人だ。讀みさした書を膝の上に載せて、それでも文法だけは間違ひないと讃めてくれた。さてその本は何かと見たらカーライルの英雄論だ。カーライルは御好きかと聞くと、大好きだといふ。そこで僕は日本の青年に及ぼしたカーライルの感化影響などを說いた。時に父なる人大得意で、娘は家族

中での大讀書家で、大學者など吹張する。この無邪氣に自分の娘をほむる風は大に氣に入つた。罪のない話だ。日本の謙遜もよいが、愚父だの、愚息だの、荊妻だの、愚娘（これは餘り用ゐない樣だ、か丶る場合には何といふ文句を使ふものにや、思ひ出せぬ）だのと、言ひ合ふのはよくないことである。成る丈正直に感情を露はすがよい。クラーク氏が發音の注意も難有かつた。大抵の人は空御世辭を振り蒔いて、發音が甘いなど丶といふのは當にならぬ。僕はこの項は人に聞き違はされない位に直つたのは同氏の注意に勵まされて多小苦心した爲である、この一行とはモスコーで別れたが、暮のクリスマスにはカードなどを送つて來た。

一撃

二、下宿屋の婆さんの親切

モスコーとペテルスブルグでは同行者があつたので、第一流のホテルに泊つて、多少散財した、そこでベルリンでは儉約することゝきめて、迎へに出て呉れた辻高衡氏の周旋で、同じ棟の中の御婆さんの一室を借りることゝなつた。英國とは違ひ、貸屋も床制度で床毎ばかりでない同じ床の内にも二個の家族の住んでゐるは珍しくない。僕は同行の立法學博士まで、この素人下宿に引張り込んで、御婆さんの一室に陣取つた。御婆さんは六十位の獨身者で、下女も置かぬ。中々達者に働いてゐる。僕も忘れかけてゐる獨逸語を絞り出して、覺束ない會話をしてみたが、一寸話せる老人である。ワグナーだの、ヅーデルマンだのハウプトマンなどいふ新時代の音樂家や作者のことまで一通りは知つてゐる。それに永年隣家にゐる辻君などが評判がよいので、新參の僕等

にも大變叮嚀にしてくれた。宿を定めた日の翌日の午後僕は中村春雨君に連れられて、フリードリヒ博物館や、公園の凱旋門や紀念碑などを見物し、夜分になつて歸ると、室の外の小さい露臺に獨逸製だらうが日本流の小さい酸漿提灯がつけてある。僕は日本に歸つた樣だと讃めてやつたら、お婆さん大滿足であつた。さて次の日も一日見物に暮して歸ると、この度は一つふゑて二つの提灯がついてゐた。僕はまた讃めたらお婆さんはホク〱微笑してゐた。僕は三晩しかベルリンに泊らなかつた。若しもう一晩泊り延ばしたならば提灯も亦もう一つふゑたであらう。とにかく人を接待することに於ては西洋の人々が中々氣が利いてゐることはこん那ことでも一端が知らるゝであらう。

三、少女が呉れた石竹の一束

さて、ベルリンのツオロギイシユの停車場を出發したのは九月二十七日の正午であつた。見送つてくれた先輩諸友と握手し、同行の立博士とある二等室に這入ると、中年の一婦人が六つ位になるまる〱と肥ゑ太つた女の兒を連れてゐる。僕等は新聞を讀んだり、折々は窓外の景色を眺めたりしたが、二三時間の後にはやゝ退屈を感じた。女の兒はとみると御母さん相手にこれも飽きが來て、變つた相手欲しい面持だか、流石に僕等を遠慮してゐる樣だ。何かの柏子で立博士はチヨコレートの菓子を三つ四つその兒にやつた。それがお馴じみの始まりで、直ぐに心易くなつた。ことにこの兒は僕へ飛び付いたり、膝の上にのつかたりして、御母さんの制するのには一向頓着しない。そこで僕は日本語を敎へてやろうさいうと、どうぞといふ。まづ一つから六つまで敎へた。六つはその年だからである。中々な骨折だ。御母さんがいふには今に御父さんが迎へに御出でになるから、それまで覺ゑなさいと勵ます。名はマリエとかいうた。マリエは一生懸命だ。されども容易なことではない。そのうちに何處かの停車場で御父さんが這入つて來た。マリエは大喜びで、接吻をした後で、一つ二つを繰り返へす。三つと六つを間違ひたりしてそれは大騷ぎだ。此度は父なる人までが一緒に稽古をやり出した。何でもこの親子の一行はマリエの老祖父母の見舞に出かける途中らしく、御父さんは澤山の美しい石竹を持ち込んである。その一束をマリエは手遊びに持つてゐた。夕方になると一行の目的地についた。僕等は荷物の手傳へなどをした。マリエの親子は僕等と叮嚀に握手をして出でにゆつた。この時御母さんがマリエに囁いだが、マリエは携ゑたる石竹の一束を僕に手渡して最後の握手をして、迎へに出た人々に連れられてプラツトフオームの人波の中に隱れて了つた。僕は少

女に日本語を教へて貰うた石竹を捨てるには餘りに惜しく、英國海峽を超ねロンドンの下宿の三階の一室にまで持ち來つて、シャボン入れの鉢の中に水を入れて漬けて置いた。海老名牧師が十月三日ロンドンを出立せらるゝ頃まで、花が持ちこたへた。

（こんな話は無盡藏だ。閑をみて百位まで書き續けよう）

親切老媼

大塚楠男

上

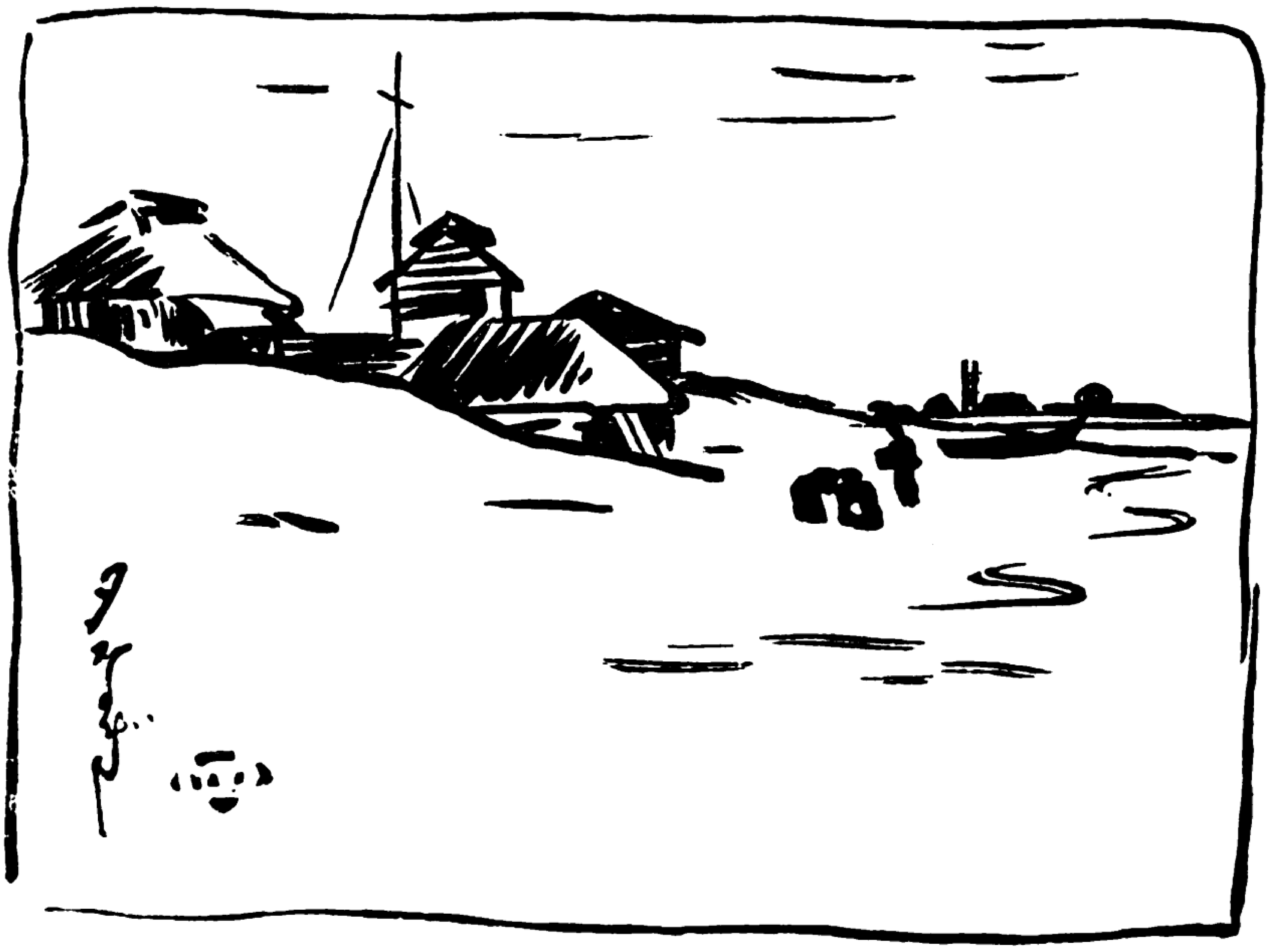
昔々ズット昔の事、一人の親切な老媼がありました、極めて慈深い同情の厚い性質でした。無論此の老媼にも名前があつたでせうが、今は「親切老媼」と云ふ名が通つて仕舞つて、誰一人本名を知つてる人はありません。家はまアー貧乏な方で、村端のみすぼらしい小舍、それも野葡萄の蔓が隙間なく絡み附いてるといふやうな家に、年が年中唯一人で、糸を紡いで寂しい生活を送つておりました。それでも疲れて通る旅人には一杯の冷水を惠んでやり、お腹の餓ひる人には少しでもパンの切れを與へ、裸體の乞食の子を見ると、何かしら見つくらつて衣物を着せてやつたりして喜んでおりました老婆の生活は斯樣な風で隨分と寂しいものでありましたが、人から羨まれもしない代りに、可愛相と思はれる程でもなく、其日〳〵を滿足に暮らしておりました。此老婆に唯一の友達がありました。それは汚げの、片目の、耳も尾も切れて不具になつてる、見るから實に醜ひ犬なんです。或る日町を通る時、血まみれになつてるの見て可愛相に思ひ、家に連れて歸つていろ〳〵手當をしてやつたら、どうやら達者になつて馴親しむやうになつた、それからと云ふもの犬は老婆が何處に行くにも影のやうに附隨つて離れる事はありませんでした。

かうして春夏秋冬、老婆は困難な人に夫々何か役に立つ事をしてやつて、年月の經過のも知らずに、せつせと立ち働いてれりました。か弱い女の手にも尚多くの愛の力を與へて下さる神樣に不斷感謝して、且つは之によりて自分の心も樂しく慰めらるゝのを喜んでたりました。困難つておる人々を見過す事が出來ず、自分の物を殘らずやつて仕舞ふので、老婆自身が困つて來ると云ふ事も度々ありましたが、其都度溜息や愚痴などを零さずに、地上に萬物を有ち給ふ神樣に心からの御祈を捧げておりました。

或る日の事、年寄の旅人が一人、疲れ切つて、あへぎあへぎやつて來て、老婆の家の前の石にどつかと腰を掛けて、兩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

手で顏を蔽つて深い溜息を吐いております。親切老婆は早速氣附の爲めの葡萄酒を飲ませて、まめ／＼しく手拭で顏に流れている汗をふいてやり、懇ろに食物をもすゝめました。其旅人は嬉しさうにお禮を云ひながらそれを食べ終ると、懐しげに其邊を見廻して、此邊の葡萄畑や、緑の森は皆あなたの所有かと尋ねました。いゝゑ、と老媼は雜作なく笑ひ追けて、何の、小ぼけな庭かある此小舍だけが妾のものですが、それでも安樂に世を送れます。と云ふ下から、もう遠うに來世の事は考へておゐでぢやろが、と眞面目な樣子で聞き質す。來世の事ですつていゝゑあなた、そんな事妾は一度も考へた事はありません。だつて神樣は今日迄も何にも不足なしに此世を送らせて下すつてるじやありませんか。不思議な事を聞く人だと老婆は怪しく思つてると、如何にも考へ深い顏色で旅人は、その通り、此の世ではたゞ仰る通



りじやが、天國とはちと譯が違ふ、神樣の國に行かうと思ふ人は贖罪金を出さねばならぬ、さもなけりや恐ろしい闇い穴に落されて仕舞ふ。此世の困難を免れやうと許り勉めずに、ちと來世といふ事もた考なされ、さうでないと今日迄の生涯は無益ですぞ。

　これを聞くと老婆の心は何となく恐しくなつて來た。贖罪金を出すと云ふたつて、何にも持たぬので如何する事も出來ない。之れまで困難つてる人々を助けたと云つても、そんな事が神樣の前には何の役にも立つまい、馬鹿な事をした、と一生に初めて手を拱み頭を垂れて涙ながらに旅人に語つた。

　妾は力の限り善い事をして來ましたが、其が神樣の前に何の價値がないといふ事はよう存じてたります、けれど此村の人は皆あなたは永久に報ゐられると云つて下さいます。これまでの善行をすつかり積つて神樣にお願しても

天國には入れますまいが、年寄つた旅人は立ち上りながら懸念そうな顏をして、私は神樣のお審判やお心を知らない、あなたが天國に入れる保證をしてくれる眞の友達をお尋ねなされ、と云つて其儘行つて仕舞つた。

老媼は初めてこんな悲しい思をした。涙は止め涙なく流れる。夢の中にも此事で苦んだが然し夜が明けて、美しい日の光や爽かな自然の景色を見ると、つひ其樣な心配も取れて、氣も落ち附き、例の慈善の爲めに町に行て一生懸命に働いておりました。

かうしてる間に又次の年が廻つて來た。日々の慈善で遂には自分の所有がだん／＼無くなつて來た。如何なる事だろうと思はないでもなかつたが、少しも心配はしませんでした。神樣は自分が何の爲めに財産を用ゐたかといふうを知つてゝ下さるし、又此が爲に困難つてる人が少しでも減つてるに相違ないと老婆は確く信じてゐました然し其後間もなく、老婆は重い病氣にとりつかれ、どつと床に就いて、もう長い事生きまいと思はれました。床の中でまじ／＼と心細い事を考へてゐると、不意にいつぞやの年寄つた旅人の事が胸に浮んだ。旅人が敎へゐて呉れた來世の事を今からも考へて見ようかと思つたが、又何だか其旅人の聲で、今からではもう遲い、仕方がない、其儘お前は命の旅を終れと云ふ樣にも聞ゆるので、恐しさに咽喉がつまつて聲も出ず、只涙許り瀧のやうに流れおちました。

兎角して一時間も經つた頃には老婆は殆んど片息になつて來たと思ふ中頭をがつくりと落し、其儘息は絶ゐました。

下

永い間苦勞な旅を續けた末、親切老婆はとう／＼天國の門に着きましたが、此處では隨分と長く待たされたので、永い旅路に勞れ切つた老婆は殆んど斃れる許りになつたが、其中やう／＼恐ろしく大きな鈴が戛々と鳴るのが聞ゐたので、頭を擧げて視ると、天國の門番のペテロが自分の前に立つてゐました、そして誠にやさしい聲で

「老媼さん、如何したいと云ふの？といふのが何うやら聞き覺ゐのある聲、

「此樣な可憐な老媼でも天國に入れませうかどうかを御尋ね申したいんですが。ペテロは一寸考へて

「お前サンガ有名な人であるとか、又は一藝一能に熟達して人類に多くの功をなしたといふやうな人かなら入れて上げてもよいです。

憔悴れた頰に涙を流しながら老婆は

「妾は死ぬ時は大變貧乏でしたし、只人々が「親切老媼」と

呼んで下さる許り、妾の名前なんど誰も知つてる人はありません、人々の利益になる樣な才能もなし、あゝ妾は天國に入る事の出來ない可憐な貧しい女で御座います。

「贖罪金を出してくれる人か、又はお前さんの善行を證據立てゝくれる人はありませんか

とペテロは道も遠いし、其上疲勞れてるのを今更歸れと云ふのも氣の毒になつて心切にかう尋ねました。顫へながらに老媼は

「いゝゑ誰もありません、天國に入れる程の事はないでもありませんが、それを證してくれる人は妾と一所に參りませんし……そんな事を云つたて何にもならない、あゝ妾は生きてる間に來世の事を考へて置けばよかつたに……。

「御氣の毒だけれど仕方がない、も一度人の世に歸つて、天國に入れる證據を以つてをいでなさい、さうすれば喜んで入れて上げますから。

とペテロは慰めながら門内につと入つて仕舞つた。其時チラと門内を見ると金光まばゆく其立派さは言葉にも言へない程なので、老媼は一層天國に行きたい望を强めました。

今は又とぼ／＼と寂しいつらい旅路を續けて老媼は人の世に歸り來て、嘗つて自分が助けてやつたり慰めてやつたりした家々を訪ね廻はろうと思つても、大勢の人々の事を一々帳

面に書き附けて置いたといふ譯でもなし、大概忘れて仕舞つたのでした。たま／＼思ひ出して行つて見れば、乞食かなんかを追ひ拂ふやうな慘らしい言葉で怒鳴り附られるといふ有樣でした、一夜の宿を貸して呉れる人もないので、野に伏し山に寐ね、渴いた咽喉はやうやく河水で癒して、尙方々尋ね歩きましたけれど、可愛相につひ／＼誰一人善行の證據人になつてくれやうと云ふ人はありませんでした。今は早や行く可き處もなく可憐な老媼はツヒ近處の小さい破屋の軒下に斃れて仕舞つた。生きてる中に、贖罪金を貯畜るなり、善行の證據人を立てゝおくなり、確然と來世の事を考へて置けばよかつたと今更後悔の涙にくれておりますと、此時ガサ／＼と耳許に音がするので、想はず見ると自分が助けてやつた汚ない、片目の犬なんです。情ないお前一人かと、老媼は泣きながら犬を確かと胸に擁いたのであります。然し此犬を連れて行つても所詮善行の證據になるまいと、絕望の淵に沈みながら、仕方なしに又もやとぼ／＼と天國への道を力なげに辿つて行きました。

天國の門前に着いて案内を乞ふ元氣もなく茫然立つておりますと、ペテロはもう先刻にから立つてゐて、

「老媼さん、證據人を連れて來ましたか、」と丁寧に聞きましたが、老婆は、

「いゝね、一人だつて記臆ゑてるものはありません。」と悲しさでおのづと頭が沈み行くのであります。

「一人もゐない！、ウムよし〳〵、が連れて來たものは何ですか。

「此は町で助けた主のない可愛相な犬で御座います。人の世でした仕事の證據者は此犬きり妾は何にも持ちませぬ。妾のやうな者が天國に入りたいなとゝは申しますまい。が只一度御願で御座います、如何な隙間からでもチラとでも、何卒〳〵天國の有樣を見せて頂きたい。冷い暗い墓場に行つた時之を迫てもの慰に致したう御座いますから。

遣る瀨ない情をしみ〳〵と涙ながらに訴ふるのでありましたペテロはやさしく親切な容子で老媼を見ておりました。此時老媼はこの人が何時か自分に來世の事を考へろと云つた年寄の旅人であつた事に氣が付いた。ペテロはにつこりして

「此犬こそ千百の善行に勝るよき證據です。親切な老媼さん、天國は決して富豪や位地の高い人々のものではない斷じてさうではない。誠のない立派な言葉よりも感謝の心から出る一滴の涙の方が天國ではどれ丈け價値があるかしれないあなたの人の世でなした仕事や此憐な犬の事なんども天國の書籍にはちやんと書き留めてある。老媼さん、あなたの名は神樣の前では一番尊く美しいものになつてゐます。あなたは地上の聲譽も望まず又天上の報償も求めずに、一向誠意から出て他人の爲めに盡くされた。試みに私が嘗つてあなたに來世の準備を暗示した時にも、何一つ自分の爲めには意を止めず、前の樣に困難な人々を助けられたのは實にゑらかつた。サア今はよい、お入りなさい、神樣はもう待つておいでなさる。

そこで門がギイーと開いた。老媼は一歩入ると、目も眩む程立流なお庭に、美しい花が見渡す限り咲き亂れて、妙なる音樂が何處ともなく聞ゑる。遙の遠方には日光に輝いてる天宮が見える。老媼は有難さにひれ伏して仕舞ました。（終り）

乳母櫻

高濱長江

今から三百年ばかり以前のことである、伊豫の國溫泉郡淺見村に德平と云ふ性質の善い人があつた。此の人は其の地方の素封家で村長を勤めてゐた位であるから、何不足もなく幸福に暮してゐたが、ただ一つ不仕合せなのは四十歳になるまで子供のない一事である。で德平夫婦は子のないことを苦にして淺見村の西方寺と云ふ有名な寺の不動尊に、いろんな

願立をしたのである。

すると遂その願立が叶へられたと見へて、德平の妻は玉のやうな娘の子を產んで、露子と名けた。でも其の母親には乳が稀れなので、お袖と云ふ乳母を傭ふに至つたのである。

。。。。。。。。。

露子は生長するに隨つて大層奇麗な娘になつたが、十四の時（ふとした事から）病氣になつた、して醫師の診斷では到底全癒るまいとのことである。乳母のお袖は產みの母にも增して露子を愛してゐるから、西方寺へ日參して露子の病氣が全快やうに三七間かの不動尊に祈ると、其の終りの日に露子の病氣は急に全快した。

で德平一家の喜びは非常なもので、其晚德平は近處の人々を招で、快氣祝の祝宴を張つたのに、此の目出度い晚に乳母のお袖が急に又病氣になつたので、翌朝醫師を迎へると、こりや到底全癒らないとの宣告を下されたのである。

で德平一家の者は非常悲しんで、お袖の病褥を取り圍みながら、お袖の遺言を聽かうとすると、お袖は次のやうに物語つた——

「私は皆樣に今皆樣のお承知でないことをお告げ申さなければならない時になりました（と申のは）私の願立が聽かれましたことなのでムいます、私は露子樣の身代に死ぬやうにと

不動尊に願立致しましたが、有難くも其れを今不動樣が御聽き入れ下しつたのでムいます、で皆樣は私の死ぬのを悲んではなりません……けれど私には只一つのお願がムいます、私は西方寺のお庭へ願開と紀念のために櫻の木をお植ゐ申ませうと不動尊へ誓つてゐるのでムいますから爲望か私に成り代つて、皆樣で此の願開をなすつて下さい……皆樣もうお別れ申します、私が露子樣の身代に逝きますのは、私の幸福なのでムいますから、其れを皆樣は御記臆下さい。」

。。。。。。。

お袖の葬式後、露子の兩親が櫻の若木を西方寺の庭へ植ゐると其の若木は生について勢ひよく翌年の二月十六日——お袖の命日——に素敵に奇麗に咲いた。そして二百五十四年間——いつもそれから二月の十六日に——咲き續いた而かも其の淡紅色と白との花は、婦人の乳頭のやうで乳が滴るのであつた。

ーラヒカデオハーン作ー

視よ冬已に過ぎ、雨もやみてはや去りぬ。諸々の花は地にあらはれ鳥の囀づる時已に至り、斑鳩の聲吾等の地にきこゆ。無花果の樹は其青き果を赤らめ、葡萄の樹は花さきて其馨はしき香氣をはなつ。わが佳耦よ、わが美しき者よ、起て出できたれ。（雅歌二〇十一—十三）

古城趾を弔ふ

村山いく子

金華山巓春更けて　紫雲棚く夕まぐれ
こごしき岩根蹈みさくみ　翠したゝる谷わけつ
昔の跡をとめ來れば　森の陰りか谿水か
寄せ來る敵の攻撃か　今なほ寒し千早風。

夕日名殘の影薄く　霞む平野のたゞ中に
一千尺の海を拔く　天下の堅を此處と知り
長良の川の水遠く　幾千代かけて榮ねよと
三葉四葉の殿作り　壽ぎて据ゑけん礎に
匂ふゆかりの紫の　花かぐはしく色深し。

むかしの跡をしのぶ井の　水にうつらふ老い櫻
その麗しき花かげに　舞ひけん少女今いづこ
松が枝高く鳶一羽　ありしうたげの樂に啼く
佳人の魂や迷ひ來し　岩のはざまに舞ふ蝴蝶。

木々の新裝色淡く　天地永へにわかしとも
生死流轉の人の世は　汝こそ知れとことゝへど
答へしもせず岩根松　千歳の枝はしげくして
ありし榮華のかげもなく　山の峽より見出せば
偉人の精や潛むらん　巴が淵の水青し。

茱萸苺

吉澤香波

茱萸苺みのるかげには蛇すめり、君こゝろみに手をふれてみむ。

○

妻としてひとりの我につかへむかさびしかるらむ大なる胸

○

僞と知らで纏ひたるごとくにも若かりし日の幸またるゝよ

○

茫としてわれたゞ立てり野の丘に君があたりの雲をながめて。

○

秘めをかば人も知らじなかりそめのひと言故にうらやまるゝよ。

○

今日迄は「可」も「不可」もなく過ぎこしといふ計りにてさびし吾が世は。

○

こと更に若き妾をよそほひて少女ぶりする女らのむれ。

○

那邊にか尋ねゆかましはぐれける少女求めて世にさすらはむ。

○

水底に小石はしづむ君故に吾はすべてを沈めむとする。

○

夏くれば青葉しげれる彼の森にほとゝぎす鳴く野の丘の家。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

近代に於ける我國女性の自覺

海老名彈正

近頃日本の女子の狀態が餘程變つて來たが、私はこれが原因の一として基督敎主義の文明を數へざるを得ない。勿論唯今の所では信者は尠いが、其思想は段々と四方に擴がつて參りまして都も鄙も共に幾分か此風に吹かれて居る事は何人も認むる所である。中には基督敎の眞實の精神が分らずして徒に外部の事を見習ひ流行を逐うて居る者も少くはない。けれども日本の女子が進歩せんとしてあせつたにも拘らず絕ねず

故障を受けた跡方を考へて見ると誠に同情に堪ねない、男子の進歩も時として妨げられないではないが女子の方は取り分け甚しい、明治以後四十年の歷史に於てすら幾度女子の進歩が挫折せられたか、幾度慘ましき迫害を受けたか、此年月の間にどれ程の浮き沈みがあつたか御話の外である。或人々は日本女子を以て元來男子より劣つた者の如く思ふ者もあるが決して然うではない吾國の女子中には一種の性格が有つて男子と相携へて進まんとした、而して其源は唯一時的のものに非ずして深く長く歷史を傳ふて流れて居る。神代に於ては女子は獨り家庭の仕事に務めた計りでなく廣く男子と交つて所謂天下の經綸に參畫したのである。古き傳に依れば夫の天照大神が女大君として天つ國を知し召して一面柔和善順の御德を顯はし給ふと同時に他面に於て戰をも遊ばし給ふ御決心が書いてあるが殊に弟素戔嗚尊が天に登られたとき之に對する對度の如きは凛として霜を踏む樣な思がする、之はほんの一例であるが二千五百年の我が歷史は女子の性格を知る上に於て決して其例に乏しくはない、その上に此等の物語は確に日本女子の面影を寫したもので外より來たものではないと云ふ事を示して居る。本來日本の婦人は善い方面から見ると貴い自覺を持つて居つたのであるから從つて男子の玩び物とし甘ずると云ふ樣な者は無かつたに違ひない。然るに印度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思想が入り支那思想が入つた結果女子の思想に一大變化を來した佛教に於ては男子でなければ成佛は出來ないとしてある。故に成佛せる女子の顏を見ると男子の相を現はして居る即ち性が變するのでなくば解脱涅槃の境涯に入る事は出來ないと云ふ譯だ。此思想は女子をして謙遜從順ならしめた効あると共に卑屈盲從の弊を生じた。又男尊女卑の支那思想が儒教を通して傳へられた爲に儒教の最も盛なりし德川時代には同等とは云へない程に懸隔が出來た。私は自分の系圖を開いて見る時に德川時代の女子が如何に憐れであつたかを感ぜざるを得ない代々の男子の名はずらりと列記してあるが其娘や其姉妹は何處に嫁いたか何か一向分らん、唯僅に存するのは母としてのみである。若し女子にして母たる事が出來なかつたならば、よし人妻となつて家政に務めても殆んど其價値を認められなかつた、こんな風に永い間深窓の中に閉ぢ込められて、女と云ふものは弱いもの、つまらぬもの、損なものとあきらめて居た女子が明治の時代に出遭つたのだから堪らない、さながら雪や氷に鎖されて居た草が風に匂ふ彌生の春に萠え出づるが如く見る見る中に頭を擡げ初めた、女子の多くは封建時代の家長制度や社會組織に滿足したのではない、仕方なく泣いて從つたのである。私事を申上げる樣であるが私の母にも何となくやる方なき一種の鬱憤が有つた樣に思はれる。或時の事であつた。私は自分の性質はどんな者かと思つて三世相と云ふものを開いて彼此と自分の事を讀み終つた後母に「御母樣はどうか」と尋ねたすると母は私は偉い者なんだ、若し私が男に生れたら擊劍や槍術で名を顯はすのだが女だから如斯して飯焚をして居るのだと答へて呉れたが、私は小供乍ら母の顏の中には何故自分は女に生れて人の家に嫁かなければならないのかと云ふ恨があり〱と見える樣に思はれた。これは獨り母の恨たる計りでなく幾多の女子が漏さんとして漏す能はざりし嘆の聲である。さればこそ封建の制一度破るゝや忽然として變態異風は女子の間に顯はれた。女子にしてはと眉をひそめる事も隨分有つたが柳川藩では文明の主唱者たる

奥樣達が散斬に成つた事がある

そして男も切るから女も斬るのだと高言したと云ふ。其頃は男ですら髮を斬るのが惜しくて泣いたのに立派な奥樣が綠なす黑髮を切つて何とも思はなかつたと云ふ事は不思議の樣に思はるゝが時世が激しく其胸を衝いたものと見える。尤も其時分は御儉約と云ふ事があつて何もかも費用を少くする際であつたから此奥樣達は髮さへ無くば櫛笄も不用なつて自然御儉約の旨趣にも叶ふと考へたのかも知れんけれども年が

立つて外國の事情が稍分り女は何處でも髪を立てて居ると云ふ話を聞いて再び髪を延ばした所を以て見ると根本動機は泰西の文明に習はんとした爲であらう。又婦人にして男と同樣の羽織袴を着けて天下を往來した者が有る。そして此等の多くは服從を以て女德の基として居つた漢學者の娘であつた、今の婦人をハイカラとか何とか云ふがそれ所ではない其等の婦人は漢詩を口吟み扇面をかざして歩くと云ふ極端なる變調に陷つたのである。何でも築地に住つて居つたカルゾン氏の夫人が英語を敎へ初めた時の事だそうだが或日袴羽織の男子が外語を敎へてくれと賴みに來た。變に思つて段々尋ねて見た所が其人は實は女で女子では英語を學ぶ事が出來ない爲一時男子の風をして今まで男子に混じて居たのである。此は一種志のある婦人と云ふ可きであらう。如斯人が其處此處に顯はれたのは畢竟永い間壓へに壓へられた反動である。又十三四年から七八年間は女の身で政談演説を行つたものも少くはない今の女子高等師範なども一頃は男子を困まらせる事ばかりしたものでとても御婆さんじみゐる所の騷ではなかつた。然るに大勢は更に一轉して今日の女子は最早自覺の域に入らんとして居る。先づ第一に女子は自已の力を以て生活する事が出來ると云ふ確信を得た、以前は女は親、夫、若しくは子に依つて養はるゝ者と極つて居たのに輓近になつては自分で

働いて自分で食ふと云ふ所謂生活の獨立なる自覺に到達したのである。今日の學問を以て嫁入りの研きの爲にする親もあるが又一方には何時迄親兄弟の世話に爲らぬ樣にとの考で勉强する年若き婦人も少くはない。否或婦人はかよわき女の身であり乍ら弟に學資を貢いで勉學をさせて居る者さへある。かゝる事は昔は全く無かつた。若し强いて求むれば唯一つある、けれどもそれは恥つ可き方面のことである。女子が其身一つに萬事を引き受けて一家を支へて父母兄弟を養ふ如き美はしき話は歐米にも餘り聞かない。こゝは實に日本婦人の特色であつて誠に賞讃す可き價値があるけれども此生活に對する自覺と共に弊害も又起つた。私は殘念乍ら當今の婦人の間に

一種厭ふべき生意氣の風がある

事を認めざるを得ない自分には敎育もある理想もある自分の意見を立てゝ自由に行動をせなければならんと云ふ樣な事を云つて美しき我國婦人の特色を失くして了ふ者があるのは慨嘆の至である。此等の人は歐米の風を眞似る積かも知れぬがそれは間違と云はなければならぬ。歐米婦人の行は其他の人として見ればそれ相應に善い所があるが唯それを眞似るのみにて何等の自覺なきものは禍である。或西洋人から聞いた話であるが其人が船中で一人の洋裝せる日本婦人に遭つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

所が其婦人の素振が亂暴と云はうか何と云はうか御話の外であつたので一體日本の婦人は淑やかであるのに彼の人はどうしてあんな事をするのかと妙に感じた、然るに其後其婦人が日本服を着た時の樣子を見ると禮儀正しく言葉が温順で如何にも日本婦人らしい。それを見た西洋人ははて變な事もあるものだ和服を着れば温しく洋服を着れば亂暴に成る。一體どう云ふ譯かと思つて尋ねた處が私は洋服を着た時は可成米人を眞似たいと思ひますと答へたそうだ。自由を重んじ意志を重んじ理性を重んずる事は結構であるが精神のある處を知らずして形骸に走り遂にどちらつかずの化物に成らるゝのは困まつた事である。今日の如く女子が一面自已の立場を自覺し乍ら他面に大なる弊害を來す時に當つて之を救ふ道があるか。云ふ迄もなくキリストの教に依らなければならない。女子が自覺す可き根本は基督に依て眞の愛を知る事である。意志や智識も勿論貴いのではあるが就中女子に貴きものはやさしき情である此の愛は一朝一夕に養はれたものでなくして人の母として人の妻として幾千年の間はぐくみ育てた人生の花である。否人間となりし以前既に養はれたものに違ひない、心無き動物でも雌は其子の爲に身を捨てるが、雄にそんな事のないのは正に此の證據とする事が出來る。女子は子を育てる爲に愛情を持つて來たのではないかと思はれる、若し神が智をのみ重んじたならば女子は其心を開いてアバ父よと呼び奉る事は出來ない。然るに幸なる哉キリストが我等に示し給ふた神は愛の神である、親を泣かせた放蕩息子にすら恩愛の御手を下し給ふ其神である。かかる神が天地を支配し給ふ事を知る時に我等は無限の感謝に胸躍らざるを得ない。あの比喩は峻嚴なる父の愛に非ずして寧ろ泣いて其子を撫する母の情である。讃美歌の中でも百七十六番の如き或は三百十七番の如きは男子として面白く無い。けれども女子が心を籠めて之を歌ふ時には女子の情其物が歌の心と相一致するから自然釣り合ひも善く縹渺として歌上の人を忍ぶ事が出來る。義理を重ずる父から見れば時として不孝な子は死んで呉れたらと願ふかも知れん。けれども母親はさまよへる子の行末を案じて

花よりもめでにし我が子よ

とく歸り來れと祈らざるを得ない。彼の天主教に於てはマリヤが幼子を抱て居る像を拜むが獨り天主教計りでなく凡ての人類は皆母を拜するこれ何が爲であるか、云ふ迄もなく愛を拜するのである。若し女子が愛なくして唯學識や意志のみならば、そは誠に危いものと云はねばならぬ。けれども愛を以て心の本とするならば意志は強くなり智識は發達する。而

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して其愛は世間で云ふ戀愛とかラブとか云ふ樣なものに非ずしてキリストの愛でなければならぬ。此の點に於て日本の婦人は未だ足らない所が甚だ多い。どうしても聖靈の力を受ける必要がある。

パウロは「愛は忍ぶ事をなし又人の益を計るなり愛は妬まず誇らず、驕らず非禮を行はず己の利を求めず輕々しく怒らず人の惡しきを思はず不義を喜ばず、眞理を喜び凡そこと包み、凡そ事信じ凡そ事望み凡そこと忍ぶなり」と云ふた、かゝる確實なる愛に基礎を持つならば其人は赫々しき婦人となるに違ひない。重ねて云ふが女子は智識を以て誇り意志を以て立つ可き者ではない。女で坐禪をして膽力を練る者もあるそうだがこんな事でどうして穩な柔しい心が起ることが出來るか女子はそんな者じやない。けれども之に反して女子の命たる情深き愛があなた方の中に深く入つて血となり肉となるならば其處に眞實の自由がある、昔は女子は唯從ふ事を敎へられた結果盲從となつた。併し乍ら今は然うじやない、愛の有る所に自由を見出せる、かくてこそ日本の女子の德は輝き愛は清くなるのである、此愛に依て世の爲人の爲に己を忘れて盡さるゝならば一時の誤解はあらうとも遂には社會の感謝を受くるに違ひないどうか浮いた心でなく飽迄も忍んで愛の十字架を荷はるゝ樣切に望んで止まない次第である。

綠蔭偶想

白雲生

◉男子は野邊に女子は爐邊に。男子は劍をとるため女子は針をとるため。男子は頭もて女子は心情もて。男子は命じ女は隨ふ。凡て此の他はまちまちなりと。之れテニソン卿の名句である。

◉男子には男子の德、婦人には婦人の德がある。婦人にして男子の德を奪はんとするは猶、婦人にして男裝せんとするが如きのみ。

◉婦人の德は能く柔なるにある。柔能く剛に克つことあるに非ずや。男子は柔に讓るも剛に退くを快とせざるのである。高き見識強き意志は婦人に稀なる德であらふ、しかし此等の德も愛なき時は却て無くもがなと見ねる樣になる也。

◉性格が人類の戴くべき冠であるならば、婦人の冠を特に飾るものは愛といふ玉である。此の玉なき冠はよしや黄金作のものなりとも、其の價値は遙かにおちん。是れ女性美の粹なればである。

◉柔なる美德を要として發揮する時は服從となる。されど必すべきは服從が決して盲從にあらぬことである。其人に盲從する妻は是れ眞に夫を愛するの情なしと云ふても可い。眞の愛情ある妻は已が夫の理想より離れ去るを悲まないで居られない。彼は現實の夫を愛するが故に、益々理想の夫に熱冲するのである。

◉嘗て一人の妻があつた。彼は其夫を愛し夫の惡しき酒癖のため非常に心を苦めて居つた。夫は妻の愛情を未だ眞に了解することが出來なかつた。夫が知らずして口にする一盃の酒は實に彼の妻の心をそれ丈傷めることを知らなかつた。妻は豊頰何時しか瘦せ色蒼さめて遂に病床の人となつた。かくして彼の女の生命もいまはと見ねしとき、迷へる夫は始めて醒めた。彼は豊醇口に甘い美酒よりも遙かに尊いものに觸れたのであつた。醇の醇なる愛は是れやがて宇宙を貫くの至誠である。

◉夫を愛する前に何を愛し何に服從すべきかを知れる女性は幸である。斯る女性は遂に夫をして地上の何物にも與へざる愛を己に注がしむるに至るであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

随感

近頃の婦人雑誌を讀みて

安井哲

近頃の人々は他人の秘密を遠慮もなく公にして快と感ずるの傾がある様に見ゑます。甚しきに至つては自分自身の下劣な生活狀體をも憚りなく雑誌に掲ぐる者が少くありません。之れは實に不愉快に堪へぬ事で、若雑誌記者が故さらに婦人の名を用ひてかゝる記事を書かれた者とすれば、多数の讀者に對して實に忌むべき下等な生活狀體を紹介する者で、苟も多數の婦人を筆に依つて教導し様と企てゝ居らるゝならば其立派な趣意に矛盾するではありませんか。又若是等の記事が婦人自身に依つて書かれた者とすれば之れは實に驚くの外は御座いません。今近頃發刊の諸雑誌を讀んで最不愉快に感じた記事の一二を擧げて批評して見ませう。

一、吾家庭内の秘密を世間に發表した記事

家庭は各自の城で、其中の出來事は外部に對しては全く秘密にすべき筈であります。然るに吾同體とも見るべき終身の友なる夫の品行を、其妻の筆、而もかく立派な文章を書き得る高等教育を受けた婦人の筆に依つて、世間公衆に憚る處もなく書き表はさるゝに至つては、其無味乾燥、冷淡極まりなき家庭の内部が想像されて、讀者は不愉快に堪へぬのであります。殊に是等の記事を寄せらるゝ方々の自稱せらるゝ所は、教育も充分にあり、而も名ある家庭に育たれた令孃達の樣であります。かゝる方々が不注意、無思慮なる夫の撰擇法に依つて、思はぬ不幸を來たし、終には淑女として言ひ能はぬ卑しい言葉を並べて、吾夫の惡事を公に發表するなどとは、殆其方々の心の狀體を了解するに苦しむのであります。若一身上の不幸が極度に達して、自ら慰むる事が出來ぬとすれば、之れを訴ふるには兩親もあり、姉妹もあり、近親もあり、親友もあるでありませう。何の益する處があると考へて、かゝる自身の恥晒しを敢へて爲されるのでありますか。人生の最慘事たる夫婦間の不和を謹みもない言葉に依つて、面白く記るし他人の同情を求め様とするのは、既に人の妻たる資格と教育あり身分ある淑女たるの資格とを失ひ終つた者であります。かく自進んで夫の恥、己の恥を世間に晒さうとする程望のない家庭ならば、寧理を明かにして靜かに法庭に離婚を請求する方が遙に勝つて居ます。

二、下宿屋住居の狀體

愼みある婦人は男女混合の下宿屋に宿泊する事を厭ひます。然るに何んぞや、同宿せる男女交際の亂れた有樣を、故さらに記して他人に紹介するとは、趣味の低さも此處に至つては、既に極度に達して居りませう。年の若い人々は習慣に染み易い者、未經驗した事もない不良の風俗を聞かされる時には、好奇心に驅られて、機會があれば之れを試みる氣になるのは稀ではありません。其故自分の恥晒しのみでなく、之れが爲めに無邪氣な多くの青年をも害ふといふ事を考へて、か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゝる記事は斷然淑女の讀むべき雜誌に寄稿せぬ樣にして頂き度いのみか、雜誌記者が、如何に新奇の記事を集めて、讀者の好奇心を滿足させ樣と勉むるにしても、能く其責任のある處をかにし、且又有名な學者や、有德の敎育家が熱心に同じ雜誌中に說かるゝ道德的の議論と矛盾して、折角の立派な議論を下劣な實例で打破るといふやうな事のない樣に、今少し責任を以て記事を撰擇せられん事を切望致します。

三、自分に直接關係ある人々の秘密

　國家の危急存亡とでも云ふ軍事上の場合は取除けとして、二心を以て他人に仕へ、又は間諜めいた目的を以て、他人に義務的關係を附けるのは非常に卑劣な事で、正しい人の爲すべき事ではありません。況して行儀見習の爲めに、又は敎育を受けんが爲めに、又は職業を習はんが爲めに、他人と特別の契約を結んで、召使となり、生徒となり、會社員とならうとするならば、先其目的を逹する爲めに最善良な主人、學校、會社等を撰ぶべきであります、唯當坐の衣食を得んが爲めに、又は虛飾を喜ぶ友人を見習ふ爲めに、輕卒に初めから不適當な場處を撰び、終に其境遇を利用して、新聞又は雜誌の材料を供給せんなどと考ふるのは、全く目的違ひの處世法であります。世にも法律上の罪人を調ぶる爲めに、職務上他人の行爲を秘密に探偵する人々もありますが、之れは止を得ず爲すのであつて、かゝる職に任る人々の特別の仕事であります。又會社や學校の內部を調査する人は、特別にかゝる責任を有する者がするのであつて、吾々普通の仕事に從事する者が、而も自分の修養時代に於て、かゝる二心のある、探偵的の態度に依つて、他人の家に召使はれ、又は他人に敎育を受け、又は職業に從事するといふのは、最も賤しむべき行爲であります。

　彼忠臣孝子が正しからざる君親の爲に其命を棄てゝまで諫言しても、他人には堅く其秘密を守つた樣な誠實なる時代は、既に過ぎ去つて、今は輕薄、冷淡、而も恩に報ゆるに仇を以てするの世の中となつて行くのは、實に不愉快の至りであります。勿論今の世は昔の世と同樣ではありませんし、生命を容易く捨つるのも決して美德ではありませんが、利慾の爲めに輕々しく其節操を賣る樣になつては、吾國の前途も實に憂ふべきであります。

　婦人の讀者を目的とする雜誌の日に月に增加しつゝある今日、吾々は實に其責任のある所を明かにして、よしや讀者に大なる利益を與ふる事が出來ぬまでも、不知不識恐るべき害毒を其心中に注がぬ樣に、深く反省注意せねばならぬと考へます。

近來の風俗と言語

鈴木生

▲近來都といはず鄙といはず一種著しい社會現象は其風俗と言語との漸く紊れて來た一事でありませう。男兒ですら此頃は隨分洗粉とか香水とか香油とか用ふるものゝ非常に增して來たのみならず、水白粉とか肉白粉とか薄化粧をするものが中々多くなつたさうであります。何といふ有樣でせう。或る老人は「これは丁度舊幕末の頃のやうだ　亡國の兆だ」といつて憤慨して居ましたが、私も同感に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

堪ねません。

▲男子のことは暫く措いて、婦人の方面に於ても風俗言語共に著しく野卑に流れて來たやうに見受けられる。此頃のやうではたゞその言語や風俗丈けでは、上流の婦人やら醜業婦やら、殆んど區別が付かんやうになりました。貴婦人ともあらうものが爭うてさる社會の流行を追ふといふ有樣なさうです。實に呆れて物も言へん次第であります。

▲第一言葉ですが、これも著しく紊れて來ました。「あります」「御座います」といふやうな、高尙な、優美な、正確な用語はやうやく廢れて、所謂「テョダワ式」のみ獨り盛んなる有樣に見ねます。「あつてよ」「よくつて」「嫌だわ」といふやうな言葉はよく今の世の若い婦人等の間に交されるやうです。友人同輩の間丈けならまだよいとしても、上長に對しても往々かやうな粗野な言葉を用ふるやうです。

▲私が家族の病氣のために歸國して居つた時、同じくかやうな用語の見舞狀を受取つて、此一通丈けは殆んど父母にも見せるに忍びませんでした。女學校などで禮儀とか作法とかいふやうなものを授けるもよいが、まづかゝる手近かな方面より始めて貰ひたいと思ふ。言葉はいはゞ其人の品性を發揮するもの、しかも不用意の間に現はすものである。私は此點に就て敎育家並びに家庭、更に若い婦人等御自身の反省を促すのである。

▲次ぎには風俗ですが、此れに就てはあまり細かいことは存じませんが、併し非常に華美奢侈に流れて來たといふこと丈けはいへやうと思ひます。吳服店などで盛んに賣れ行くものは、堅牢とか耐久とかいふ方面のものではなくて、元祿風とか光琳式とか、たゞ色合の美しい一寸見の奇麗な、木綿物でも絹物に見ねるやうなものなさうです。以て時代人心の一般を覗ふことが出來るではありますまいか。

▲美を好むのは人性の常で殊に婦人に於て然りです。ですから決して美を好むのが惡いといふではないが、併し擬物の流行、堅牢耐久の如何は顧みないといふのは、人心の輕薄なのも見ねすいて居ります。啻に衣服のみには止まりません、髮飾りやら履物やら、其他一切の化粧品まで、皆華美新奇を競ひに競ふ有樣です。

▲一言すれば今の世の一般の若い婦人等の心を占領して居るものは、華美です、奢侈です、虛榮です、これらの慾望を滿さんがためには其貞操をさへ賣る者があるといふではありませんか。今の世の美は過まれる美、今の世の尊ぶものは實は卑しきものなることを知らしめ、華美、奢侈、虛榮に反抗して着實、剛健、質素の氣風を皷吹するは、恐らく當面の急務でありませう。でなければ所謂新時代の婦人は、着倒れ、化粧倒れに倒れて仕舞ふ外はありますまい。

花の雫

薔薇子

◎日曜學校の女生徒に、皆樣は山上の垂訓中の九福中で如何なる幸福を第一に望まんとするかと尋ねたる時、一人の少女は私は心の淸きものは幸也といふあの福を得たいと申しました。之れは誰でも然う望むべきことでありますが、わけてかゝる福を第一の望みとなし得る少女は眞に幸であると思ひました。

◎純潔は實に少女の第一の望み理想であらればなりません。淸い心をもつて居る少女は、別に美服を纏はず、粉黛をほどこさないでも、人々に愛され友に敬はれ美しい立派な生涯の門出をなすことが出來ます

◎もし我はシヤロンの野花、谷の百合花なりと、詐なき本心よりいひうるなればかゝる少女は幸也。

◎我は我母を理想とすといひうる少女は誠に幸なる一人也。而して又斯る少女の母たる人も幸也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

●東京婦人會講演●●●●●●　本月十三日(第二曜)午後一時より本郷壹岐殿坂本郷會堂にて開會、文學士倉橋惣三及海老名彈正兩氏の講演ある答。

●心理學通俗講話會●●●●●　大學院在學の心理學研究者中心となり社會萬般の現象に心理學的說明を與へ、心理學上の智識と興味を與へんとする本會は、本月九日(土)午後二時より神田三崎町中央バプチスト會舘に於て開會左の講演ある由

一、日本の舞踊と美容とに就て　理學士　田邊尙雄氏

二、嫁と姑　高島平三郞氏

三、プランセットの話　文學博士　福來友吉氏

◉芥種幼稚園●●●●　兩國敎會牧師瀨上廣成氏夫妻の經營する所にして、本鄕元町一丁目四十七番地にあり、成る可く基督敎信者の幼年子弟を集めて宗敎的敎訓をもつて保育する方針なりと。

●東京音樂學校春季演奏會●●●●●●●　は例年の如く本月初旬開催すべく、目下頻りに其準備中なり。

●學生聯合大音樂會●●●●●●　高師、美術、早大、慶應、明治、靑山及び唯一俱樂部の各音樂部が組織せる同會は本月五日靑年會舘に於て開會せらるべし。當日は來朝中なる佛國天才音樂家ヴヰネッチ氏及びハイドリッヒ氏其他有志の賛助演奏もあるべく、頗る盛んなる事なるべし。

編輯だより

▲新綠目に鮮かなる初夏の候、本誌も皆樣の御愛顧により、玆に第三卷を發行することとなりました。世間には隨分華美な婦人雜誌揃への中に、調子はづれの本誌など如何にやと始は氣遣ひ致しましたが、案外なる讀者諸君の盛んなる御同情に接しては、誠に感謝にたへません。

▲外には讀者諸姉妹の深い御同情の御奬勵がありますので、內部の諸姉妹方の御奮發も大したもので、之は編輯者の欣喜にたへない所です。安井主筆を始めとし、海老名夫人、元良夫人、野口夫人何れも筆を揃へて編輯〆切前日までにはチヤンと編輯机上に原稿を送つて下さいます。追々松井夫人も其詞藻を御出しになりませふ。

▲何分目下は紙數も少ないけれど、讀者諸君の御實驗なり、御感想なりを御送りあれば出來る丈紙上に御紹介申し度考です。但成る可く長からぬ樣望みます。

▲問答欄に御質問の方は出來る丈問題の意味を明瞭にかいて下さい。適當なる解答をあげるには其が第一の要件でムいますから。

▲次號にては更に興味と敎訓に富める記事を載すると共に敬虔なる婦人の史譚及學術講演など御紹介致し度思ひ夫々準備中で御座います。

▲次號原稿〆切は六月十八日、本誌に關する用向及び投書は一切小石川久堅町八新人社事務所に御願ひ申ます。

本誌定價{一部金拾錢(郵稅ナシ)◎六部半年分前金六十錢(郵稅ナシ)◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢(郵稅ナシ)

外國行定價{壹部金拾四錢(郵稅ナシ)◎半年分前金八拾錢(郵稅ナシ)一ケ年分前金壹圓六拾錢(郵稅ナシ)

廣告料

行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座に依らざる御送金は總て小石川區竹早町郵便局宛●●●●●●●●

●郵券代用は一割增の計て算御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛に願上候

東京市小石川區久堅町八番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年五月二十八日印刷
明治四十二年六月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區久堅町八番地　野口末彥

發行所　東京府下豐島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁十一番地　齋藤活版所

院長診察月、水、木、金、午前、松田醫學士診察火、土、
午前、窮者施診火、木、午前、入院診斷後隨時應需、
松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二一番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）

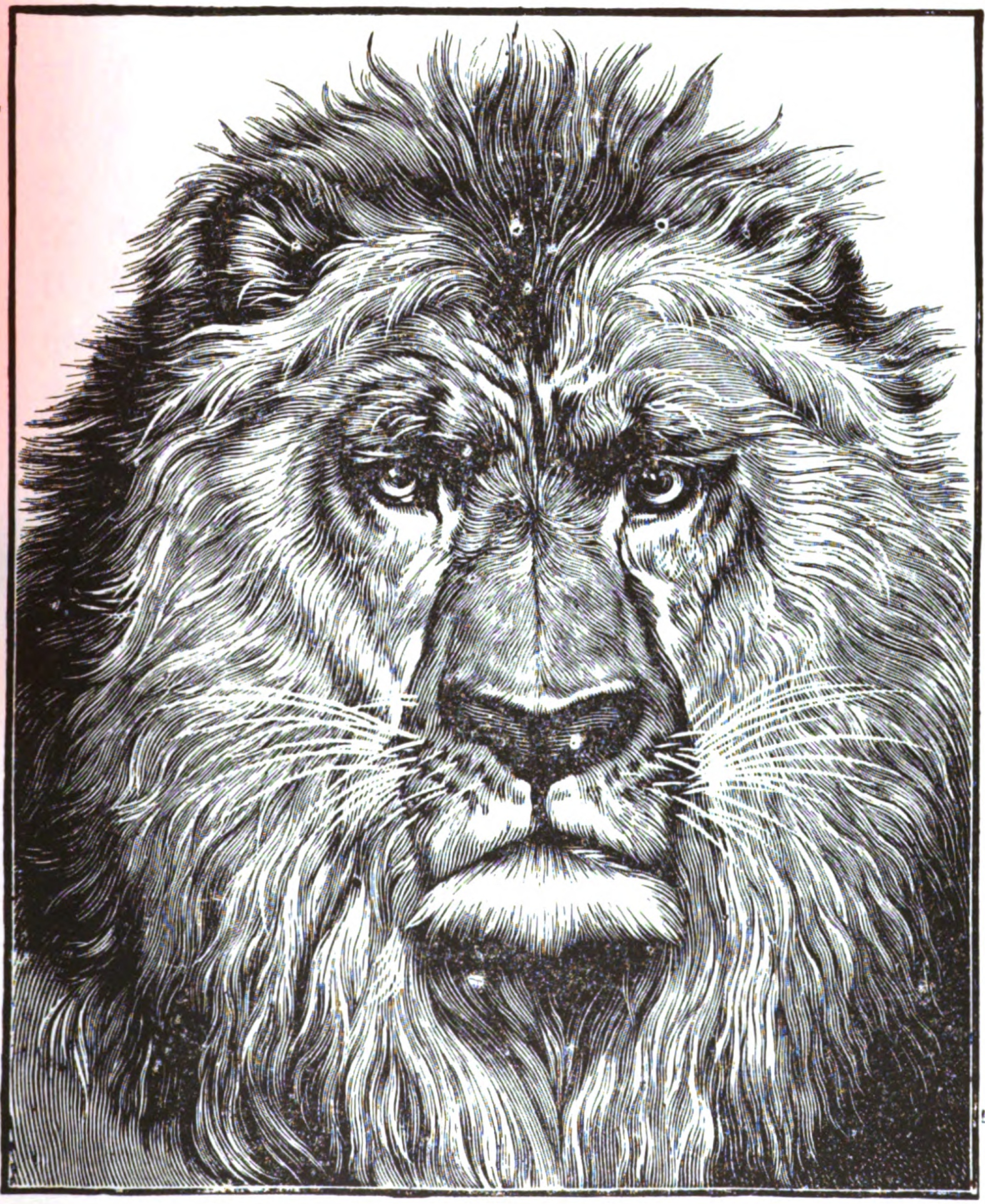
電話茅ヶ崎（二一番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後○同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

毎月一回一日發行

ライオン歯磨



發賣元 東京神田柳原川岸 小林富次郎

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十二年六月一日發行第壹卷第參號